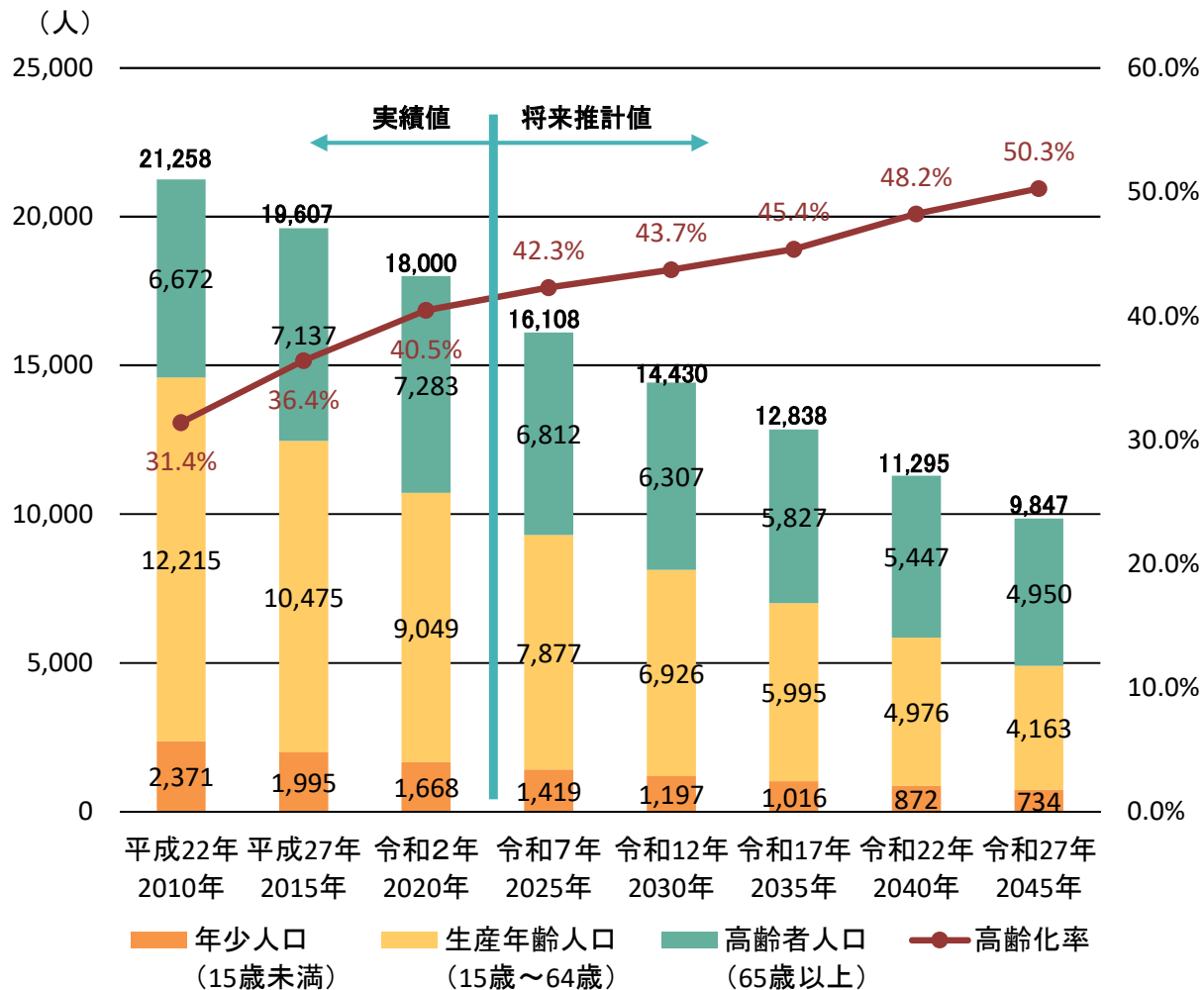


都市の現状及び将来見通しから みる課題分析

1 人口動向 (1) 人口推移



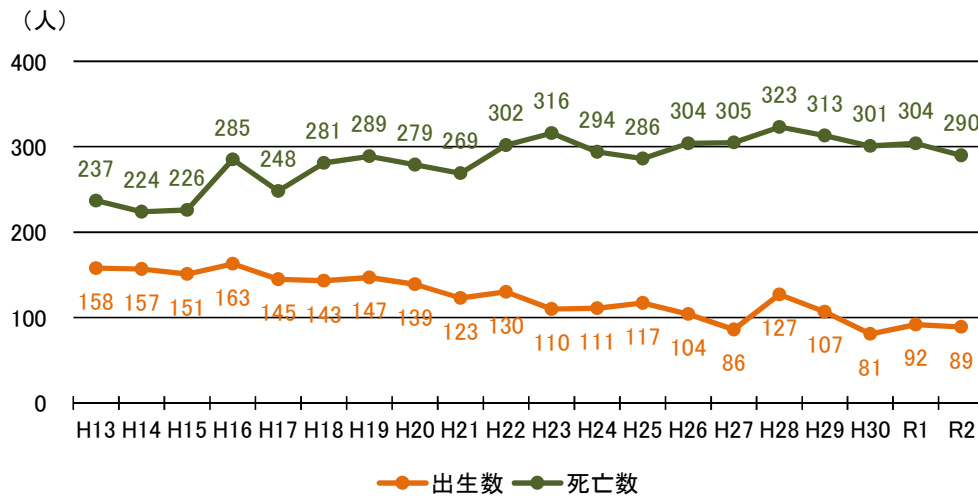
- 本町の人口は、平成22年（2010年）から令和2年（2020年）の10年間で3,258人（約15%）減少しています。
- 将来人口では、令和2年（2020年）の18,000人に対し、令和27年（2045年）には9,847人となる見通しであり、30年で人口が半減するペースになります。
- 高齢化率も年々増加し、令和2年（2020年）時点では40.5%となっています。令和27年（2045年）には50%を超え、余市町民の2人に1人が65歳以上となります。

余市町の総人口・年齢別人口の推移

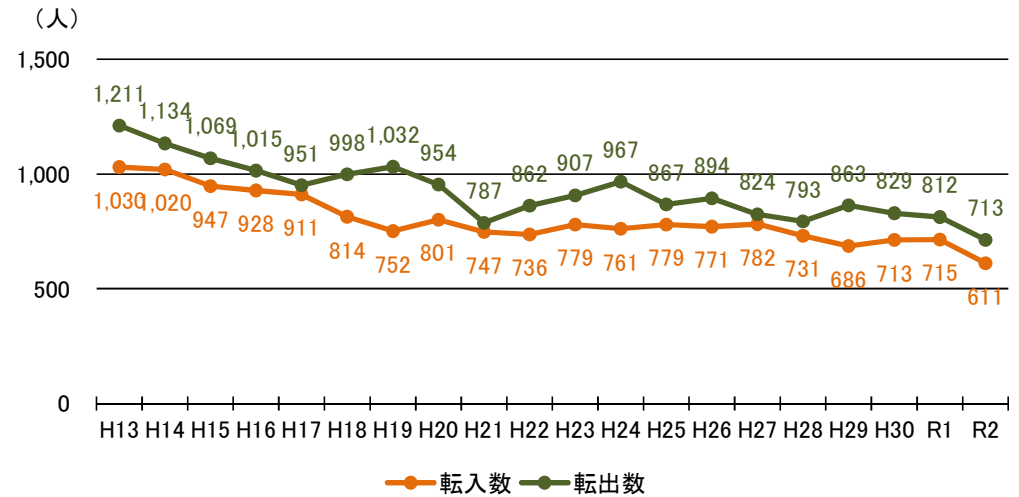
（資料：実績値は国勢調査、将来推計値は国立社会保障・人口問題研究所（平成30年推計））

1 人口動向 (2) 人口動態

- ・ 自然動態の推移は、出生数は平成16年（2004年）までは150人以上を維持していましたが、以降は減少が続いており、平成30年（2018年）からは100人を下回る状況になっています。死亡数は、平成22年（2010年）に300人を超えて以降は変化が少なく、横ばいとなっています。
- ・ 社会動態の推移は、転入・転出ともに減少傾向にあり、転出数が転入数を上回る転出超過による社会減が続いています。令和2年（2020年）では、転入数が611人、転出数が713人と、100人程度の社会減が生じています。

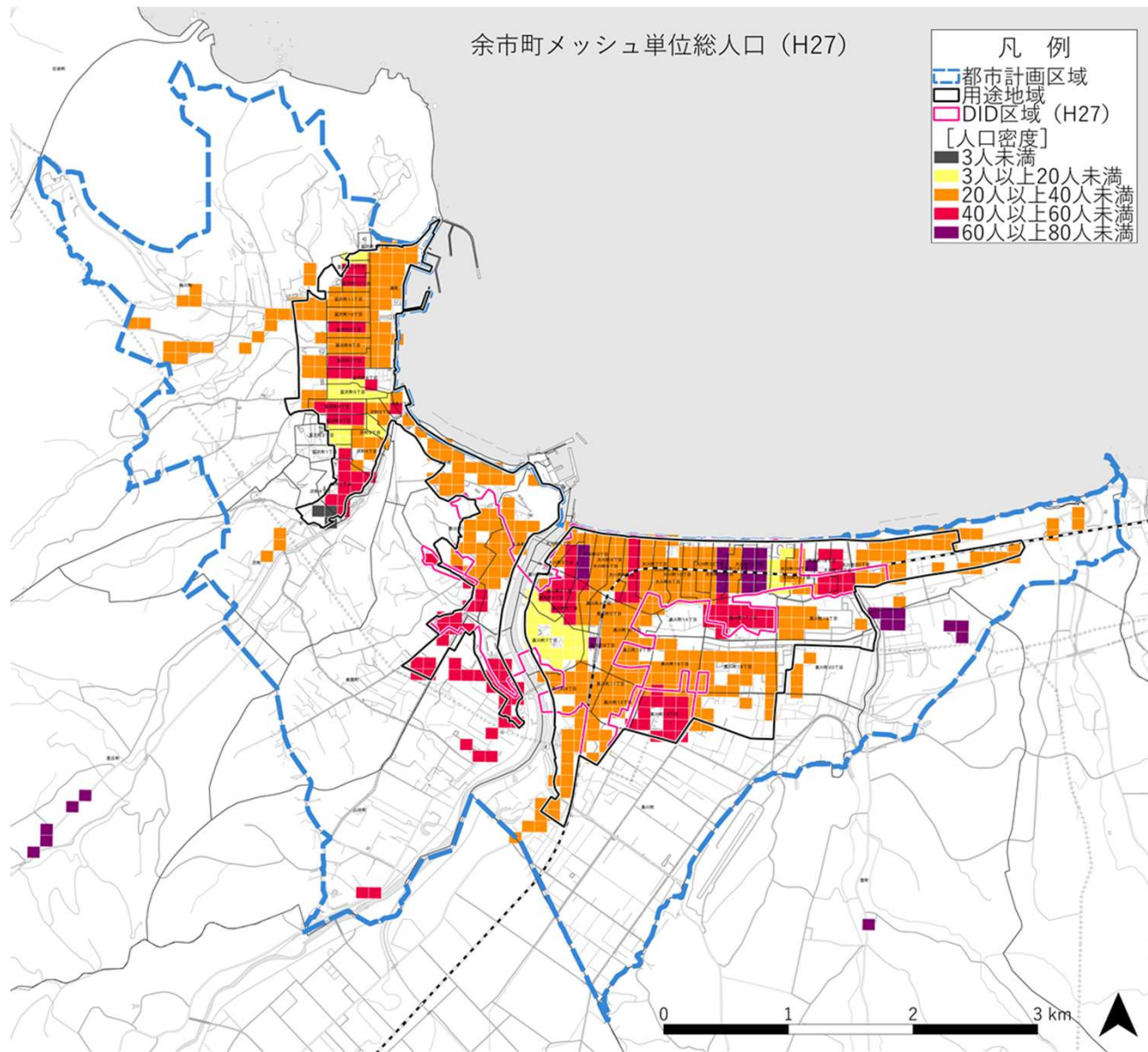


自然動態（出生・死亡）の推移（資料：住民基本台帳）



社会動態（転入・転出）の推移（資料：住民基本台帳）

1 人口動向 (3) 人口密度の変化 平成27年 (2015年)

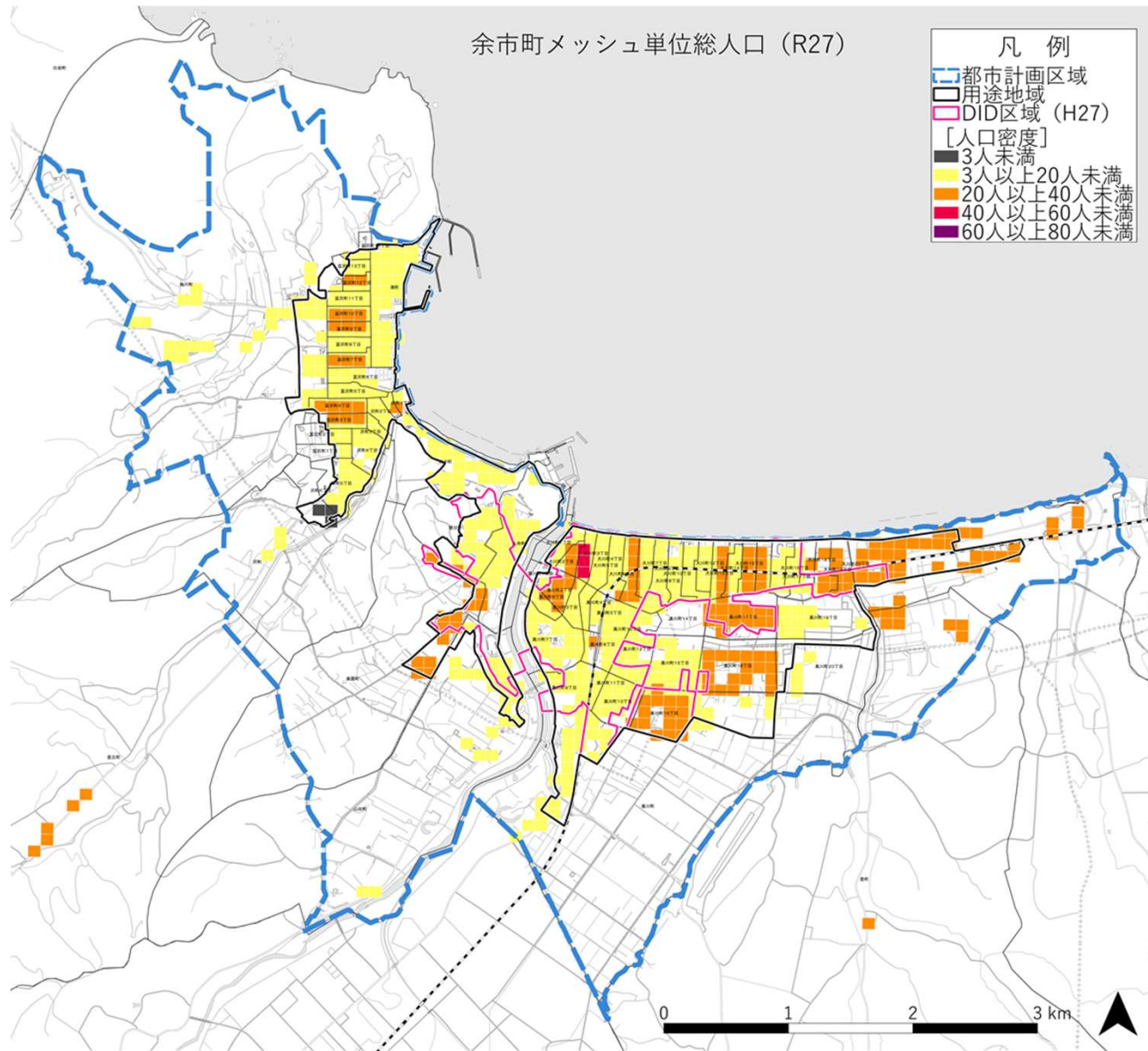


- DID区域 (人口集中地区：40人/ha以上) は、JR余市駅を中心に西は余市川、東は登川までを含む範囲に設定しています。
- 平成27年 (2015年) の100mメッシュ (1haあたり) ごとの人口分布は、「大川町12丁目」が72.5人と最も高く、次いで「大川町3丁目」が72.0人、「黒川町8丁目」が68.0人となっています。
- 町域で見ると、60人以上を示しているのは東部に多く、特に大川町に集中している傾向にあります。全体としては、20人以上40人未満の地区が多く広がっており、3人未満の地区は一部となっています。

(資料：国勢調査)

※予想値は「G空間情報センター将来人口・世帯予測ツールV2を用いて算出

1 人口動向 (3) 人口密度の変化 令和27年 (2045年)

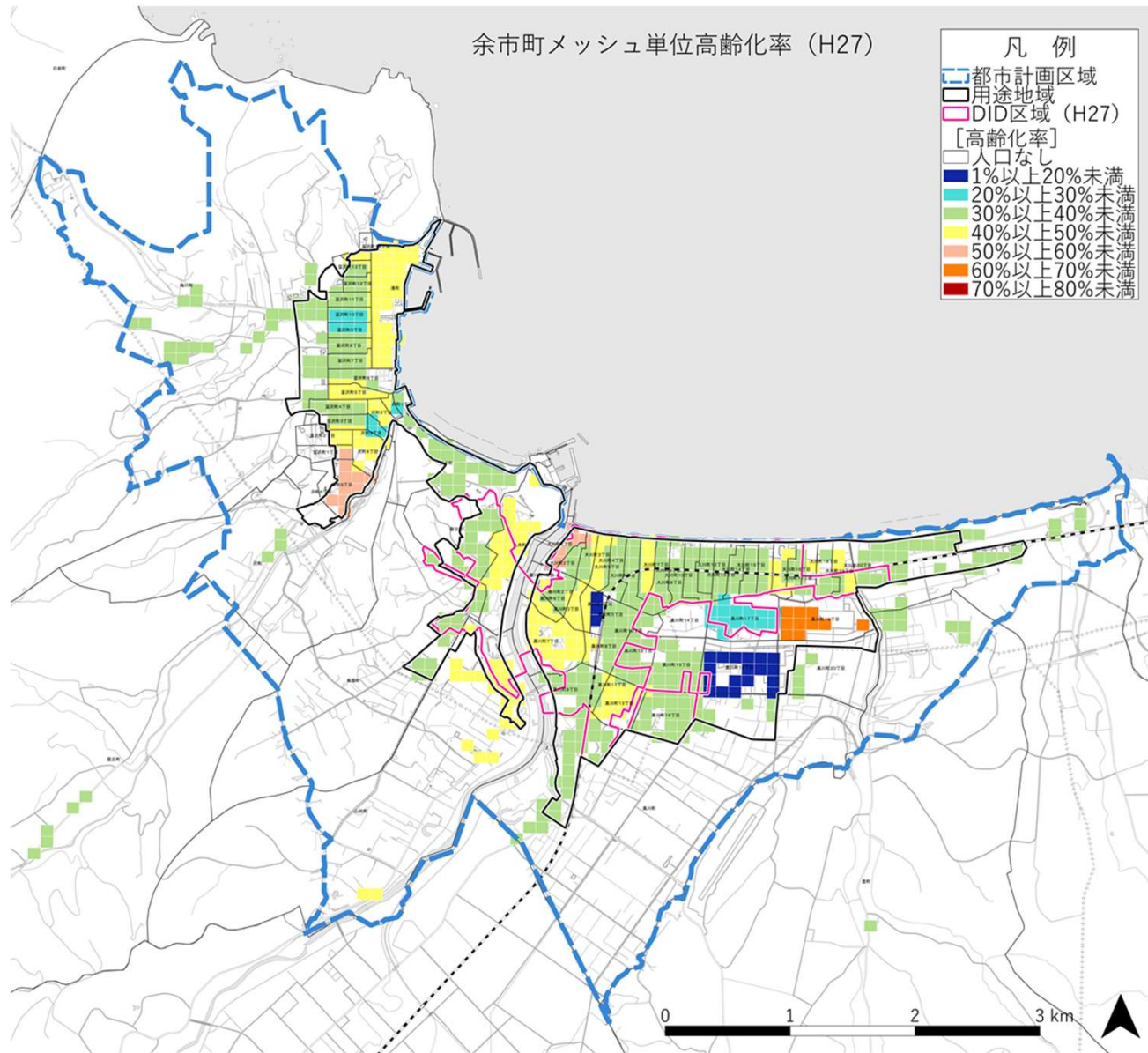


- 令和27年 (2045年) の人口分布では、60人以上を示す地区はなくなり、「大川3丁目」が41.3人と40人以上の人口密度を保持する唯一の地区となります。
- 人口密度が高いのは、「沢町1丁目」が38.0人、「大川町12丁目」が34.5人と東部に多くなっています。全体としては、3人以上20人未満の地区が多数を占めることが予測されています。
- 平成27年と比較すると、どの地区も人口密度が半減する傾向にあり、「富沢町14丁目」が6.0人、「富沢町5丁目」が7.0人など、西部の地区の人口が大きく減少する想定にあります。

(資料：国勢調査)

※予想値は「G空間情報センター将来人口・世帯予測ツールV2を用いて算出

1 人口動向 (4) 高齢化率の変化 平成27年 (2015年)

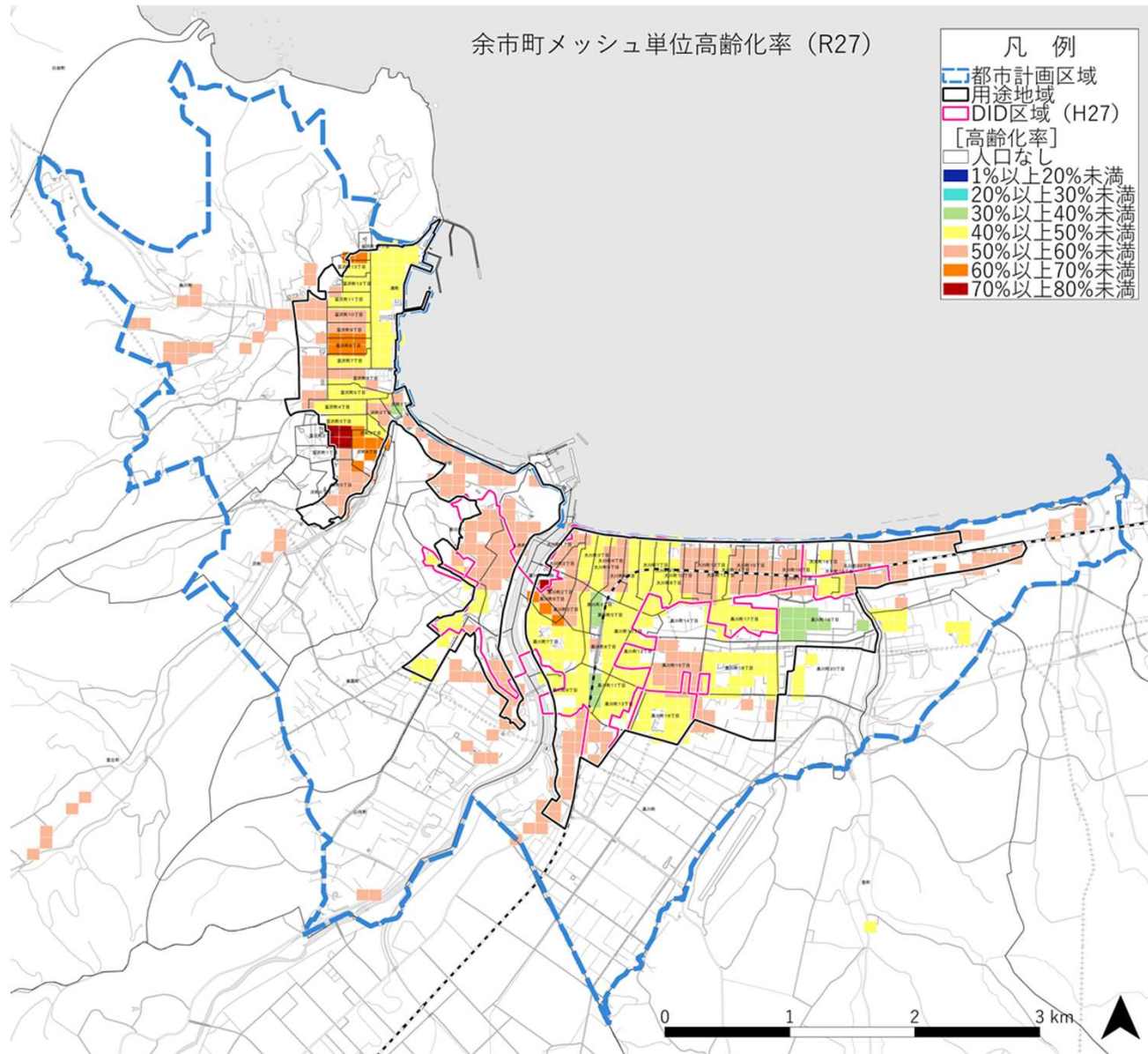


- 平成27年 (2015年) の100mメッシュ (1ha あたり) ごとの高齢化率 (65歳以上) は、「黒川町19丁目」が60.5%と最も高く、「沢町5丁目」が51.6%、「大川町1丁目」が51.2%と続いています。対して、高齢化率が低い地区は、「黒川町5丁目」が14.9%、「黒川町18丁目」が17.8%となっています。
- 町域で見ると、中部は高齢化率が41%から50%の地区が半数近くを占めており、高齢者の居住が多いエリアとなっています。全体としては、31%から40%の地区が多く分布しています。

(資料：国勢調査)

※予想値は「G空間情報センター将来人口・世帯予測ツールV2を用いて算出

1 人口動向 (4) 高齢化率の変化 令和27年 (2045年)

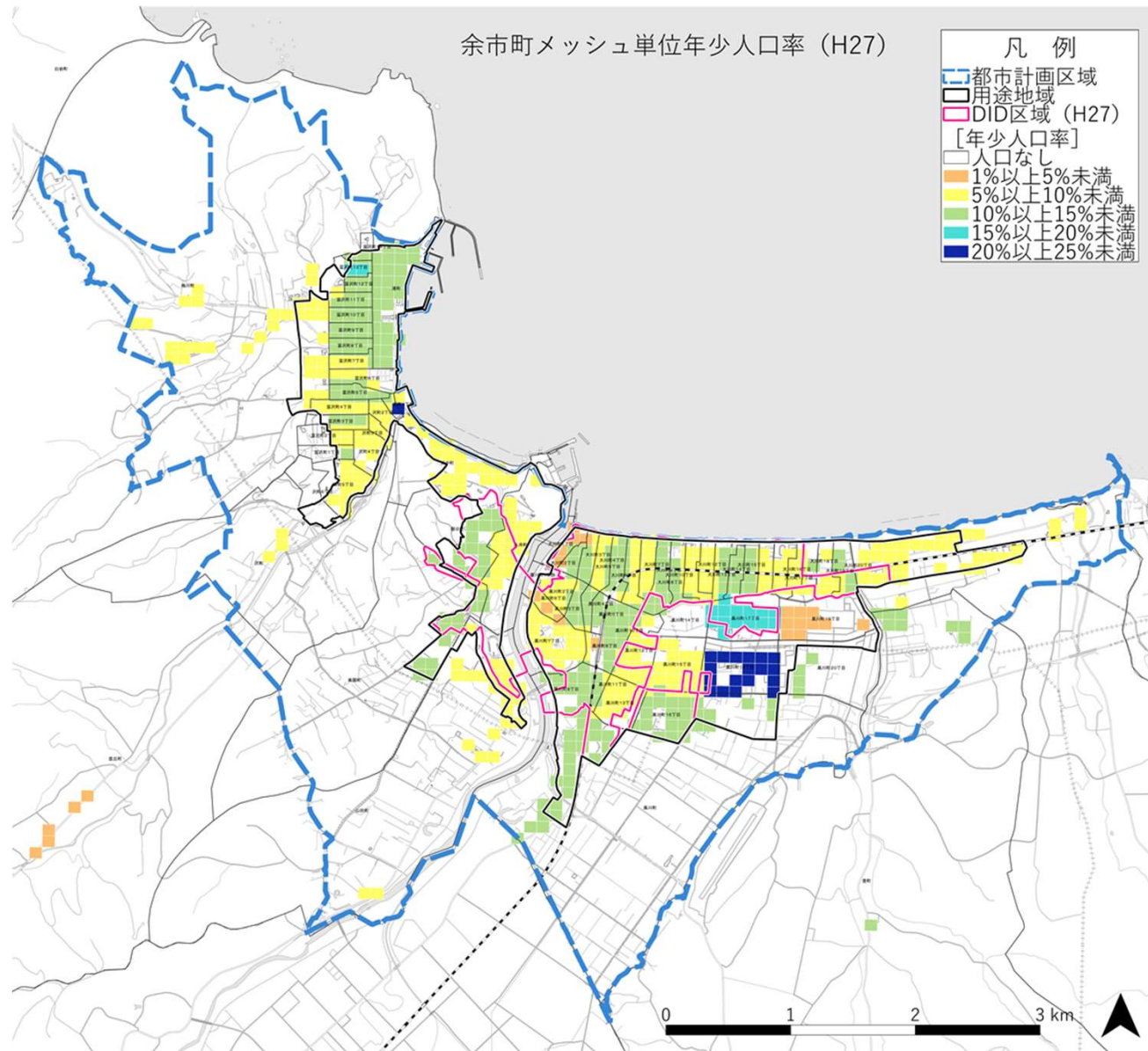


- 令和27年 (2045年) の高齢化率では、30%未満を示す地区はなくなり、最も低い「黒川町19丁目」でも31.1%となります。高齢化率が高いのは、「黒川町1丁目」が76.9%、「富沢町2丁目」が71.4%を示し、全体としては、41%から50%及び51%から60%の地区が多くなります。
- 平成27年と比較すると、高齢化率がほとんど変わらないのは、「富沢町1丁目 (変化なし)」、「黒川町11丁目 (0.5ポイント減少)」、「沢町5丁目 (0.6ポイント減少)」となり、平均値では各地区の高齢化率が平成27年から14%程度上昇することになります。

(資料：国勢調査)

※予想値は「G空間情報センター将来人口・世帯予測ツールV2を用いて算出

1 人口動向 (5) 年少人口率の変化 平成27年 (2015年)

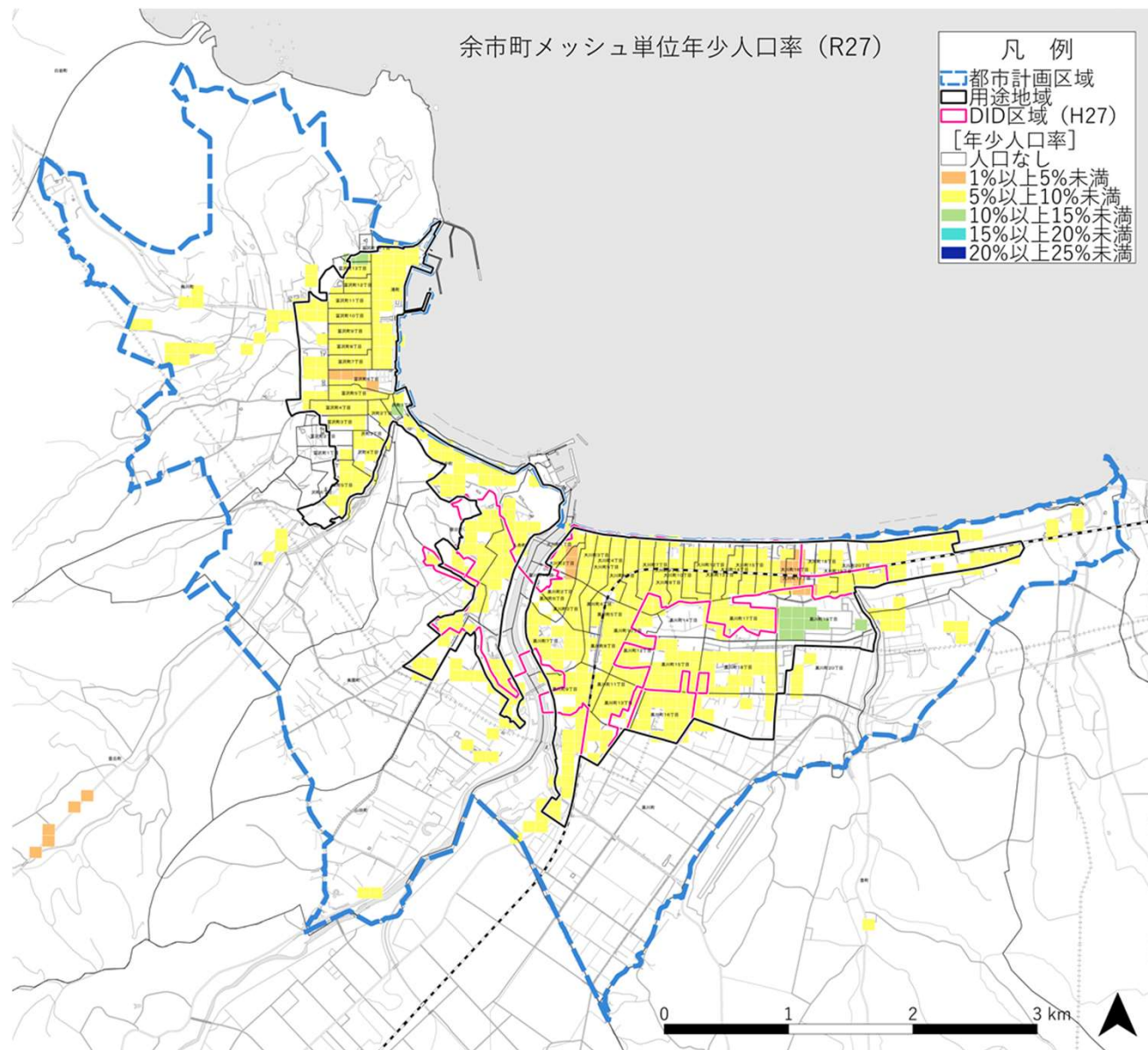


- ・平成27年 (2015年) の100mメッシュ (1ha あたり) ごとの年少人口率 (0歳~14歳) は、「黒川町18丁目」が23.3%と最も高く、「沢町1丁目」が20.8%、「富沢町13丁目」が17.3%と続いています。
- ・町域で見ると、6%から10%の地区が多く分布しており、11%から15%と比較的に年少人口が多い地区は、市街地と郊外の間に住居地に広がっています。

(資料：国勢調査)

※予想値は「G空間情報センター将来人口・世帯予測ツールV2を用いて算出

1 人口動向 (5) 年少人口率の変化 令和27年 (2045年)



- 令和27年 (2045年) の年少人口率では、10%以上を示す地区は「沢町1丁目」が10.5%、「黒川町19丁目」が10.4%、「富沢町14丁目」が10.0%と3地区のみになり「黒川町1丁目」や「沢町3丁目」のように、15歳未満の居住者が全くなくなる地区も予測されています。
- 平成27年と比較すると、年少人口率が大きく変わるのは、「黒川町18丁目 (13.4ポイント減少)」、「沢町1丁目 (10.2ポイント減少)」、「富沢町13丁目 (10.0ポイント減少)」となっています。平均値としては、各地区の年少人口率が平成27年から3%程度減少することになります。

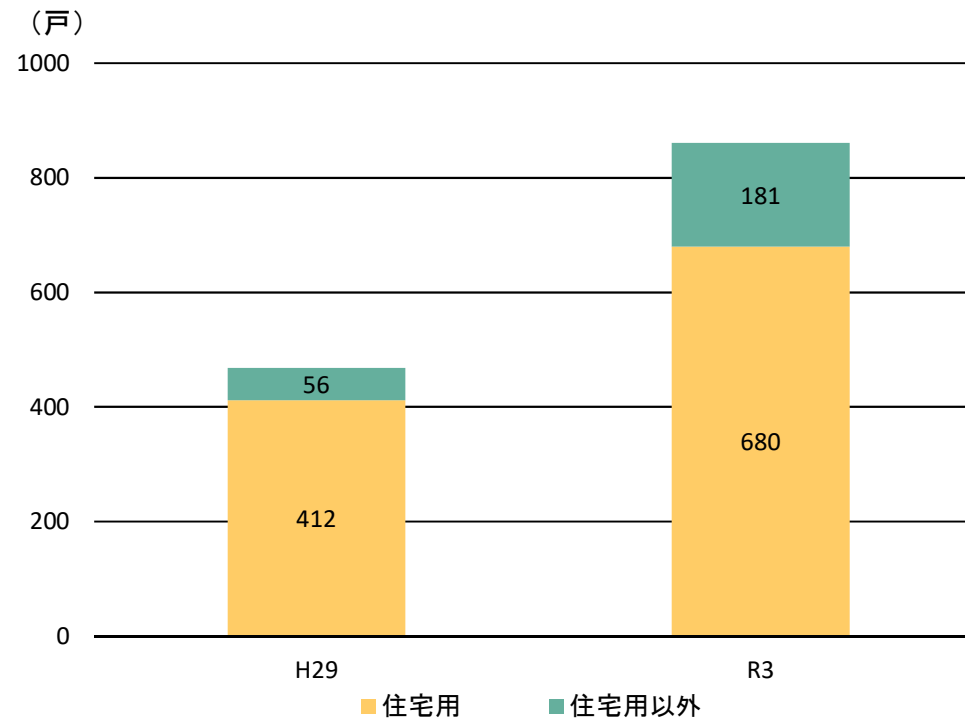
(資料：国勢調査)

※予想値は「G空間情報センター将来人口・世帯予測ツールV2を用いて算出

2 土地利用 空き家の状況

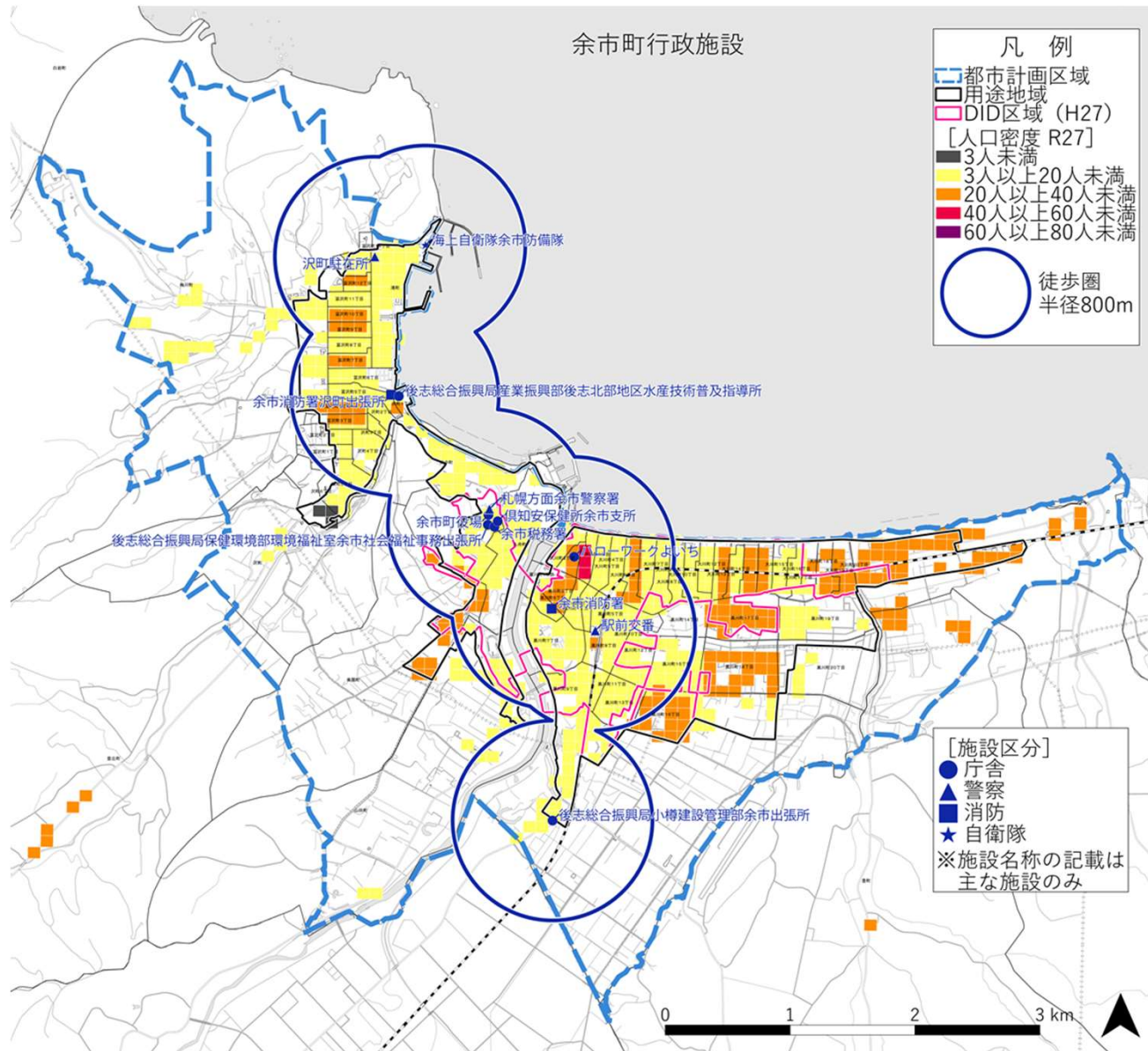
- 余市町が平成29年度（平成29年10月末現在）及び令和3年度末の比較では、空き家数は4年間で393戸、45.6%増加しており、用途別では住宅が268戸（39.4%）、住宅用以外が125戸（69.1%）増加しています。

尚、余市町では平成30年3月に「余市町空家等対策計画」を策定し、計画期間を平成30年度から平成34年度（令和4年度）までの5ヶ年として、空家対策を講じています。



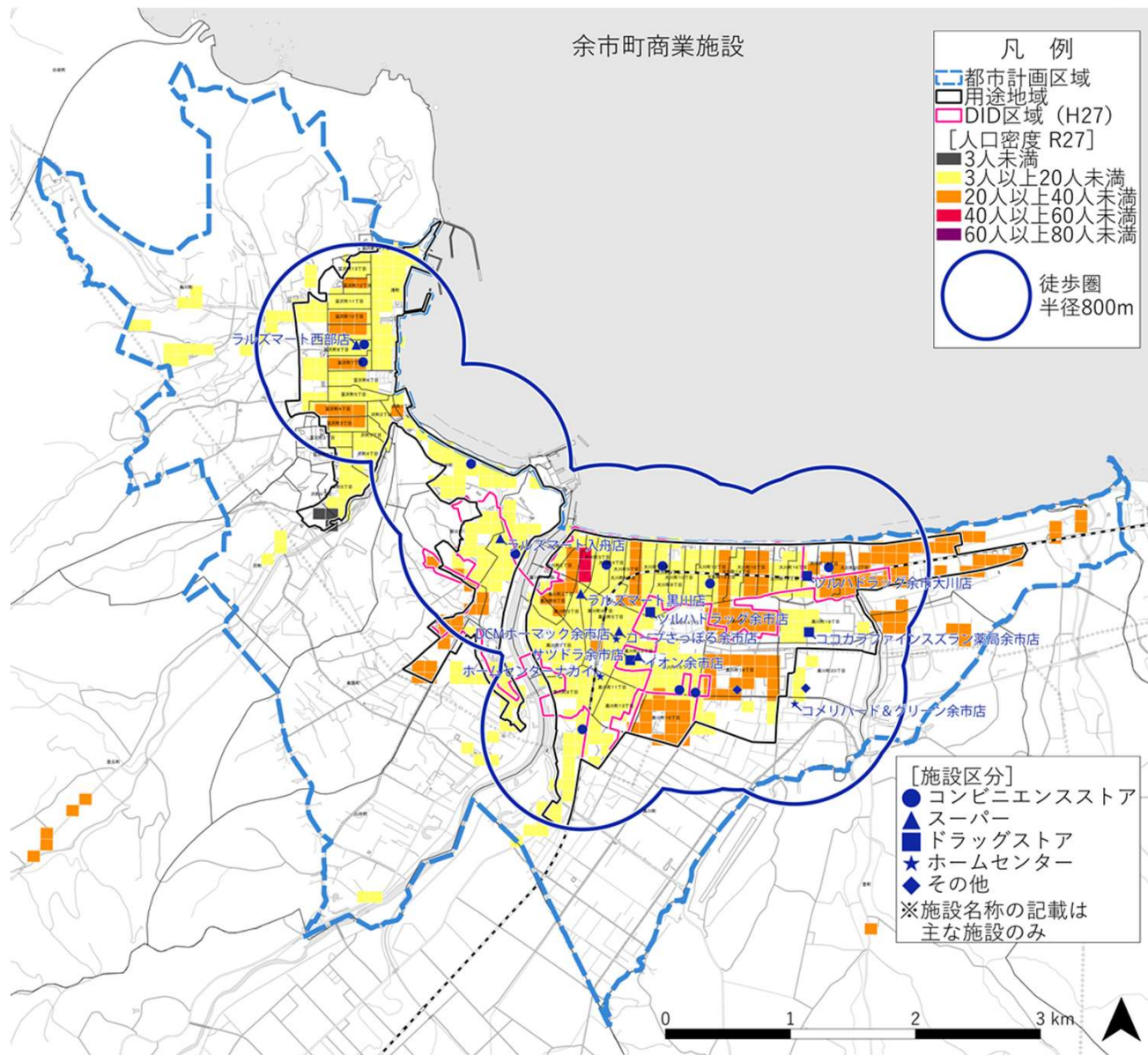
余市町における空き家数の推移（資料：余市町空家等対策計画（H29）、余市町空家データベース）

3 都市機能施設 (1) 行政施設



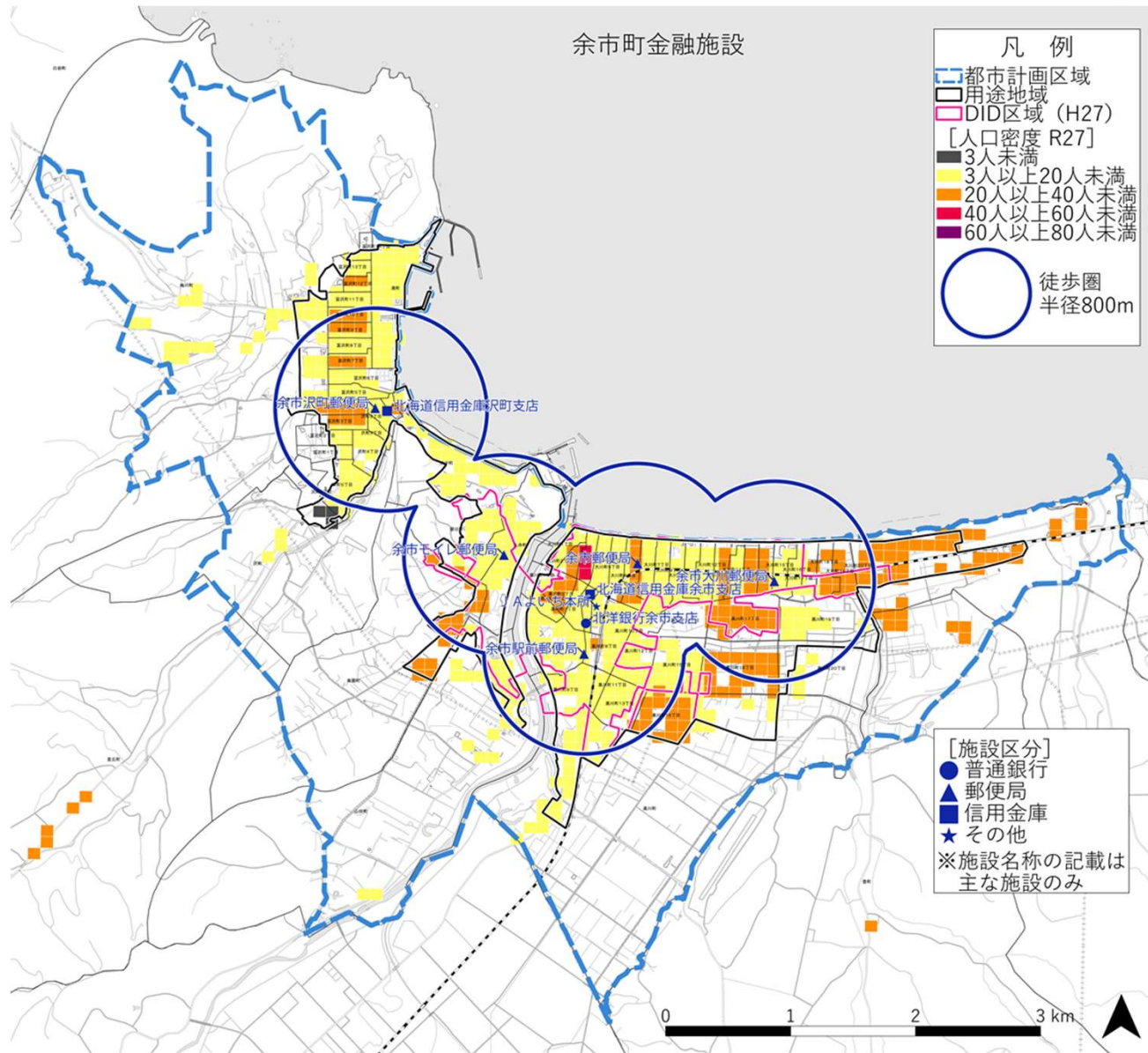
- 行政施設は、役場をはじめ、保健所、税務署、警察署が朝日町にまとまって立地しています。
- 沢町には駐在所と消防署があり、海上自衛隊も含めて核となるエリアを構成しています。
- JR余市駅から東側の地域に関しては、行政施設の立地がない状況にあります。

3 都市機能施設 (2) 商業施設



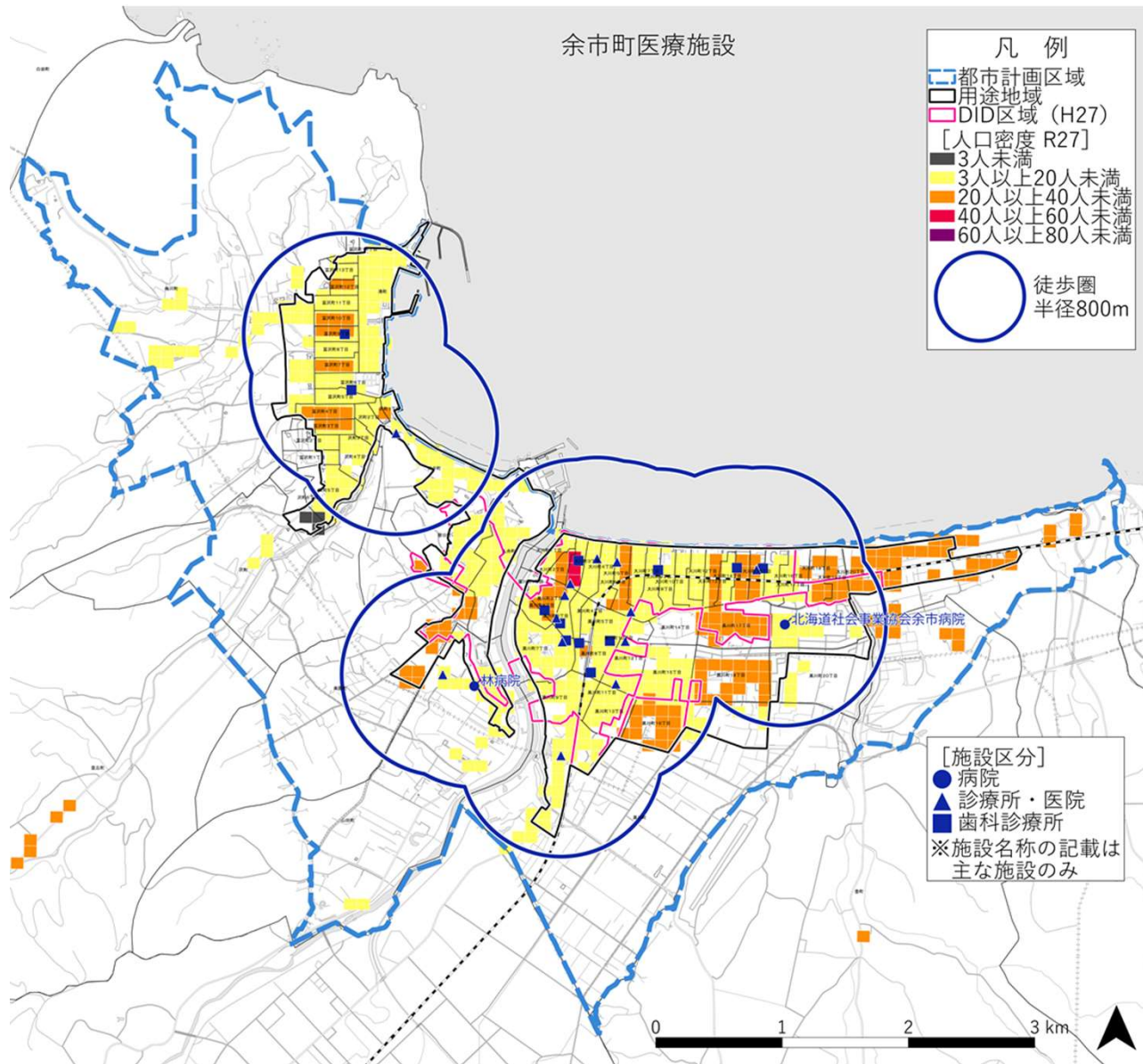
- 商業施設は、用途地域内では高密度に集積しており、空白となっている地域はありません。
- 施設の種類では、コンビニエンスストアが多く、大型のスーパーやホームセンターの立地は、黒川町に集中しています。

3 都市機能施設 (3) 金融施設



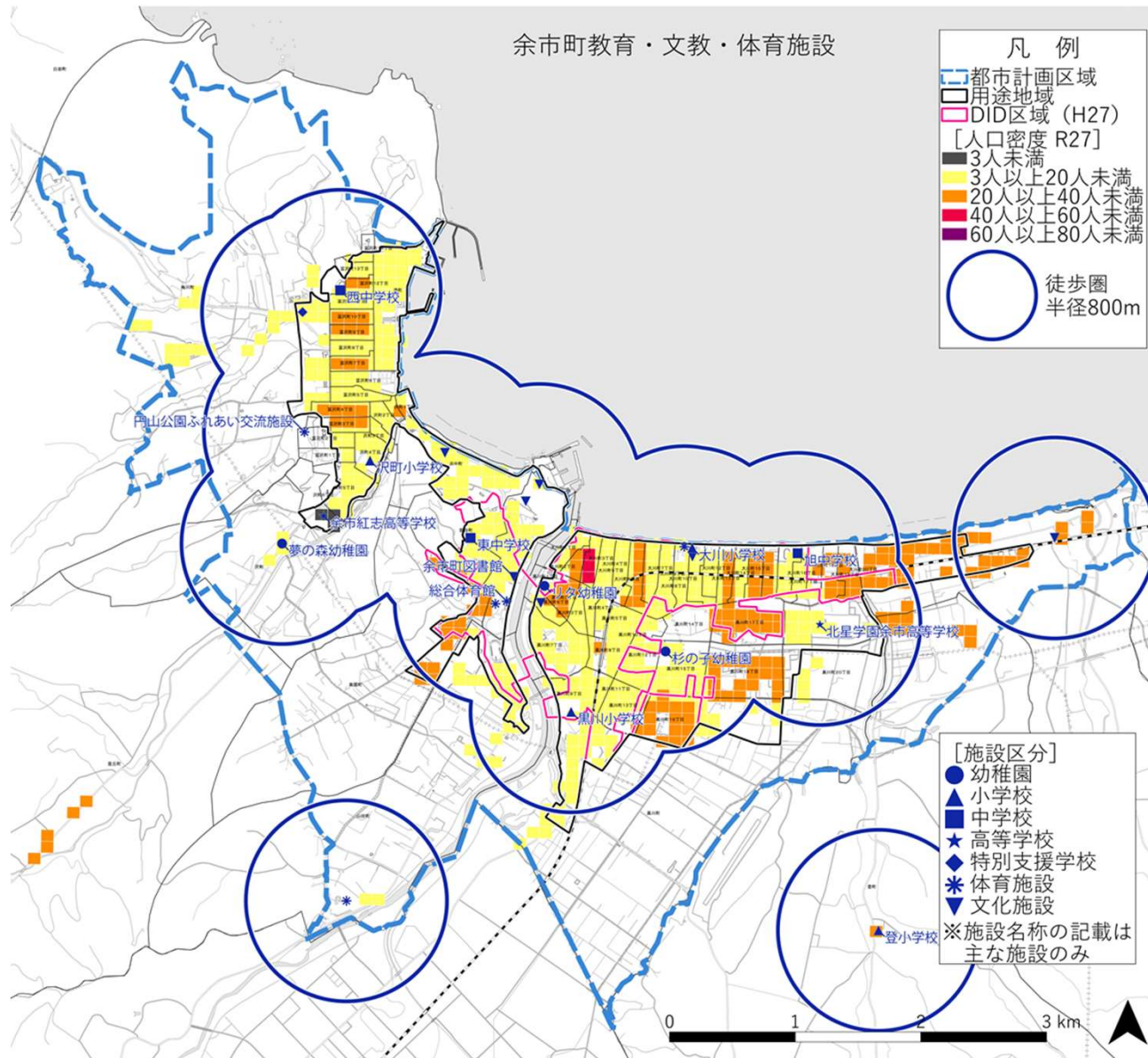
- 金融施設は、銀行、郵便局、信用金庫があり、大半はJR余市駅周辺に立地しています。
- 郊外では、沢町、入舟町、大川町に郵便局があり、市街地及び住宅地が広がる用途地域内は、徒歩圏でカバーできる立地となっています。

3 都市機能施設 (4) 医療施設



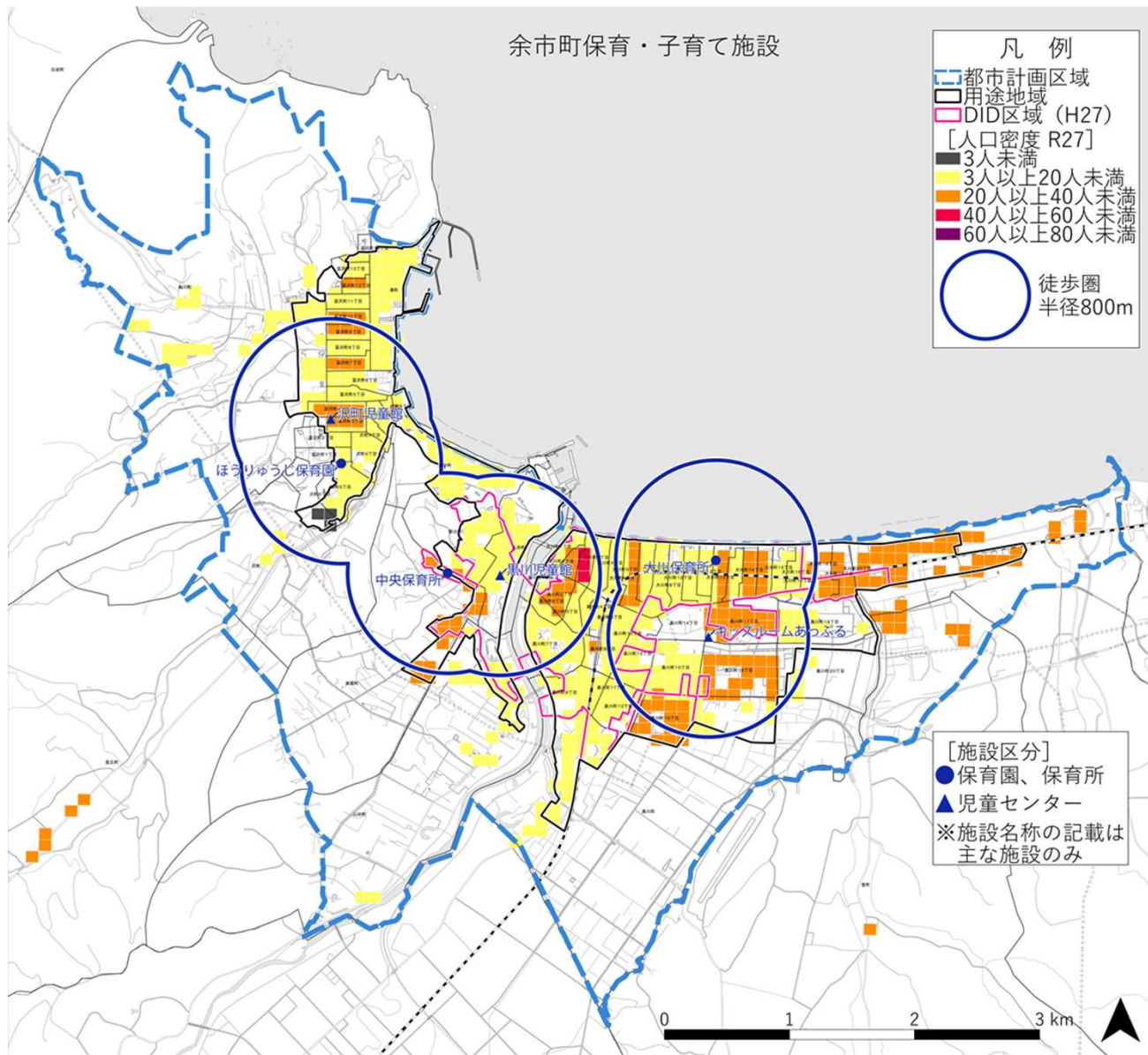
- ・ 医療施設では、病院は2件と なっていますが、診療所・ 医院の数が充実しており、 日常生活における健康状態 は、身近で受診できる環境 が整っています。
- ・ 診療所・医院と歯科診療所 を含めた医療施設全体の利 用範囲は、用途地域内では 概ね徒歩で通える立地と なっています。

3 都市機能施設 (5) 教育・文教・体育施設



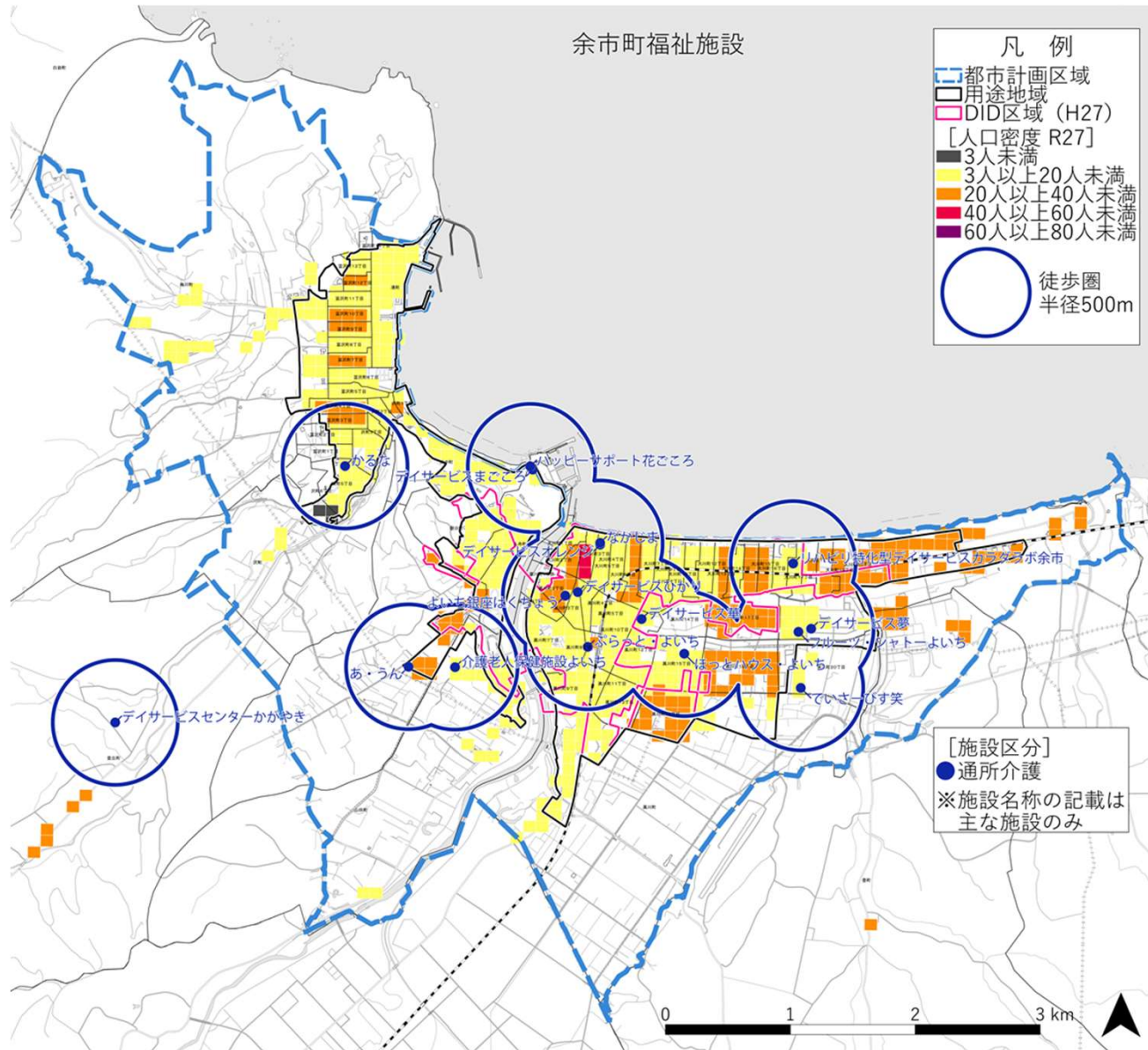
- 教育・文教・体育施設は、幼稚園は3施設、小学校は4施設、中学校は3施設、高等学校は2施設となっています。
- 各施設の立地が分散して配置されているため、全体としては広範囲をカバーしていますが、用途・年齢に応じてバスや自転車での移動が必要になります。

3 都市機能施設 (6) 保育・子育て施設



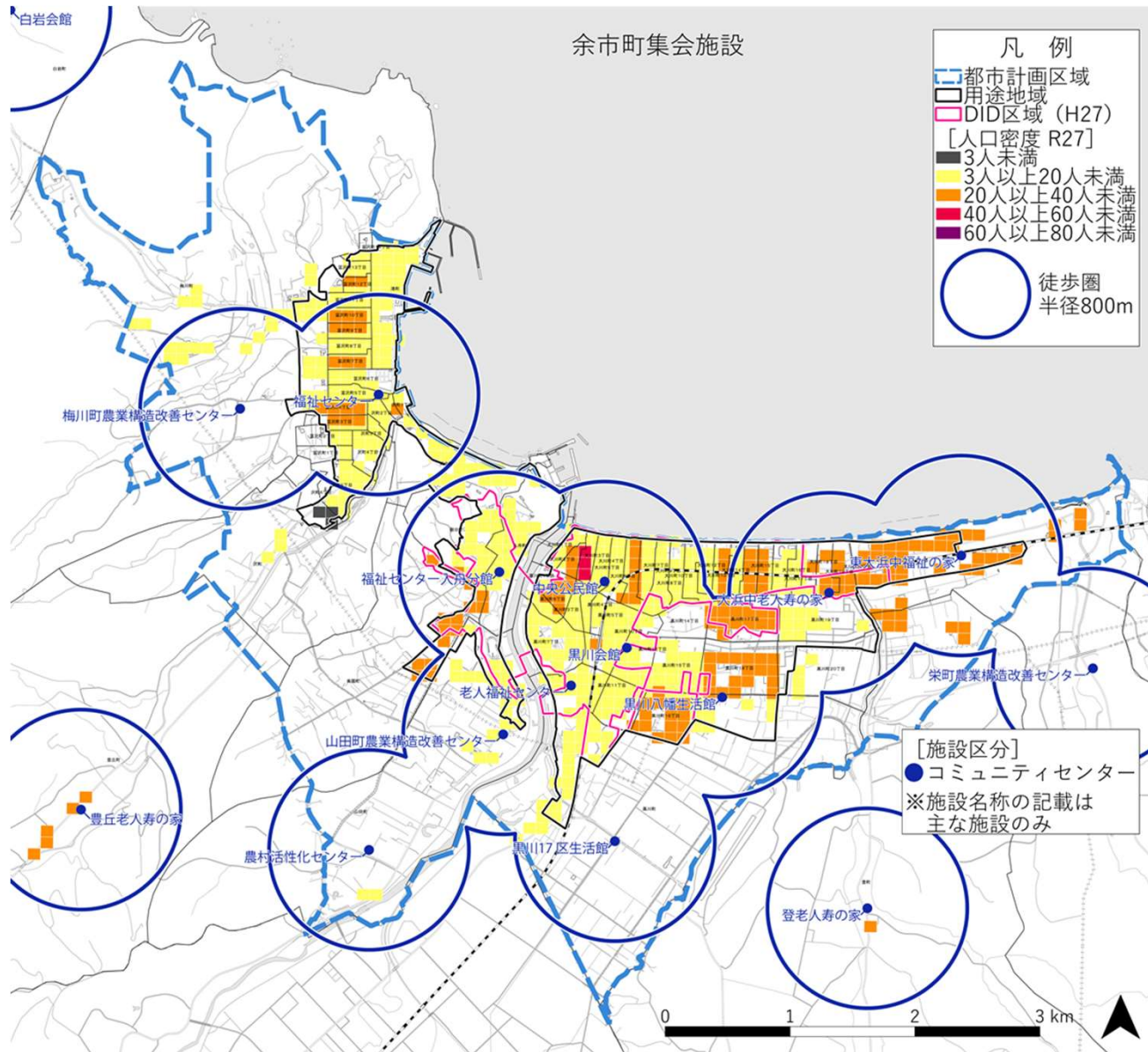
- ・ 保育・子育て施設は、保育園、保育所が3施設、児童センターが3施設と少数に限られています。
- ・ 新たに区画整理された黒川町17丁目に子育て支援施設ができ、子育て世帯の受け入れに対応しています。

3 都市機能施設 (7) 福祉施設



- 福祉施設は、通所となる施設を取り上げると、JR余市駅を中心とした範囲及び黒川・沢町周辺のエリアに関しては高密度に集積しており、徒歩で通える立地となっています。
- 郊外では、公共交通の利用や送迎による移動が不可欠となっています。

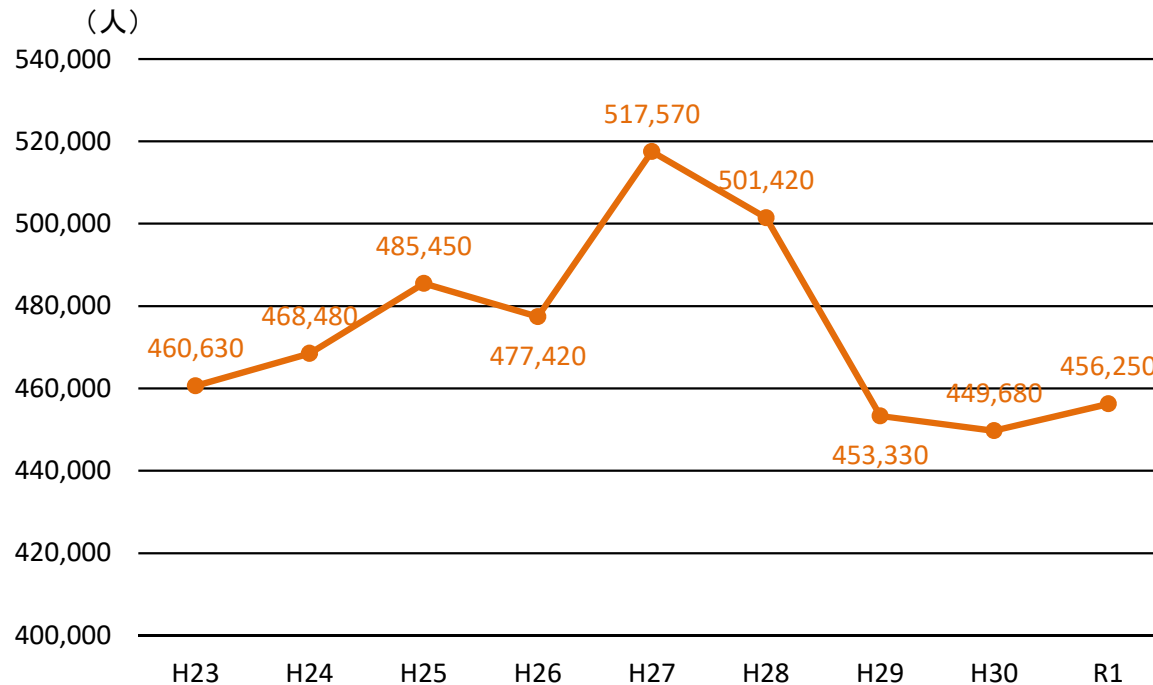
3 都市機能施設 (8) 集会施設



・集会施設は、現状では郊外も含めた広い範囲に施設が点在し、災害時の避難なども含めた公共サービスの提供を可能としています。

4 公共交通 (1) 鉄道

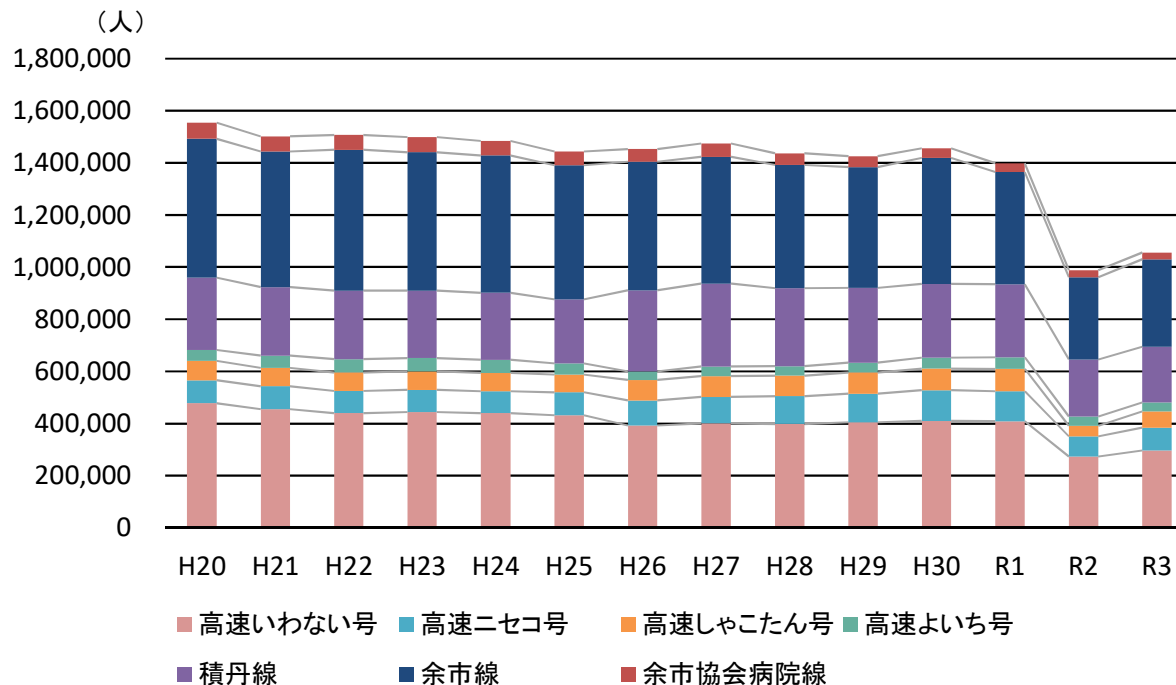
- ・ JR余市駅の年間乗客数は、平成23年（2011年）から平成26年（2014年）までは48万人前後を推移していましたが、平成27年（2015年）には51万7千人と大きく増加しており、連続テレビ小説の放送が影響していると考えられます。
- ・ 以降は乗客数が減少し、令和1年（2019年）は45万人となっています。
- ・ 近年は、JR函館本線の長万部・小樽間に対して北海道新幹線延伸による並行在来線が廃止となり、北海道新幹線並行在来線対策協議会では、2030年までにバスを中心とした新たな交通ネットワークの構築に向けた検討を進めています。



J R 駅年間乗客数の推移（資料：国土数値情報
駅別乗降客数データ）

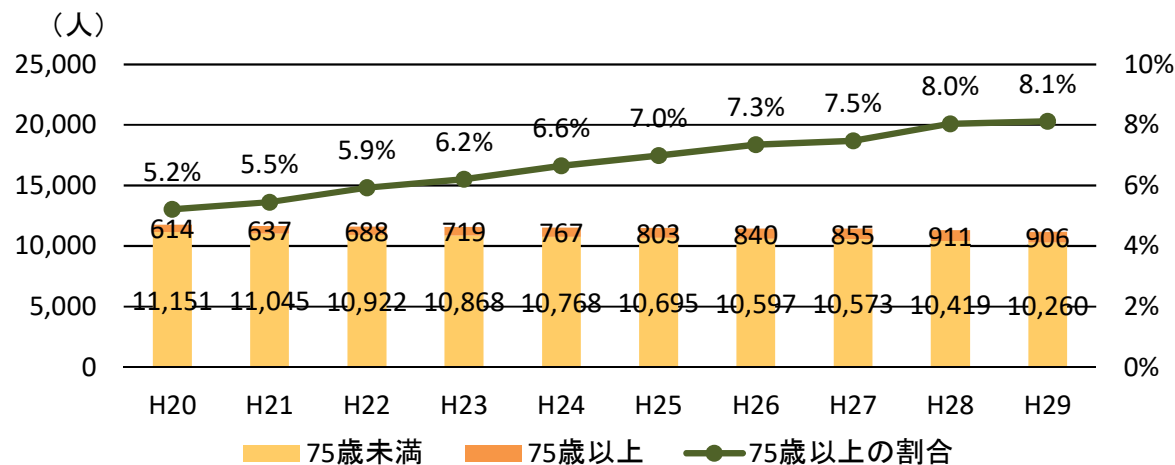
4 公共交通 (2) バス

- ・バス路線は、高速バスが4路線、幹線バス・地域内バスが各3路線運行しており、平成20年（2008年）から令和1年（2019年）までの年間輸送人数は、ほぼ変わらず推移しています。全路線を合わせた輸送人数についても、150万人程度を維持している状況にあります。
- ・しかし、令和2年（2020年）は新型コロナウイルスの影響により利用者数が大幅に減少し、令和3年（2021年）の年間輸送人数も105万人と低下しています。

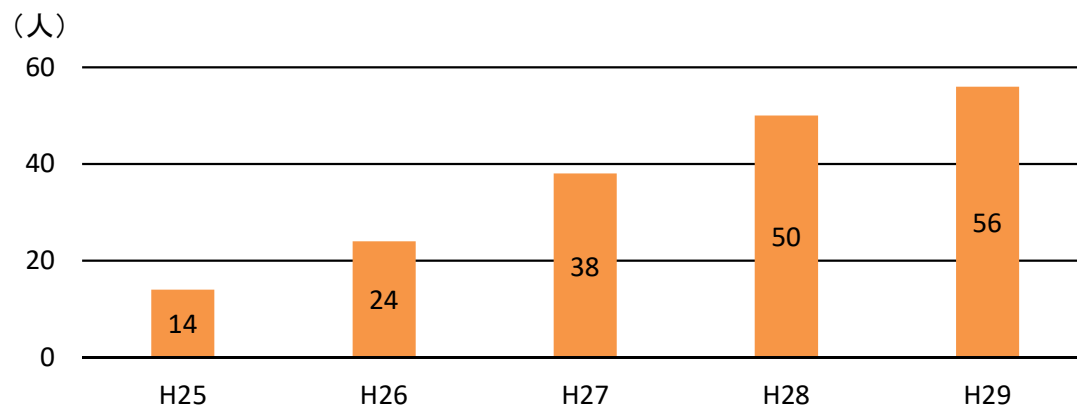


バス路線別利用人数の推移（資料：余市町地域公共交通計画）

4 公共交通 (3) 高齢者の自動車運転



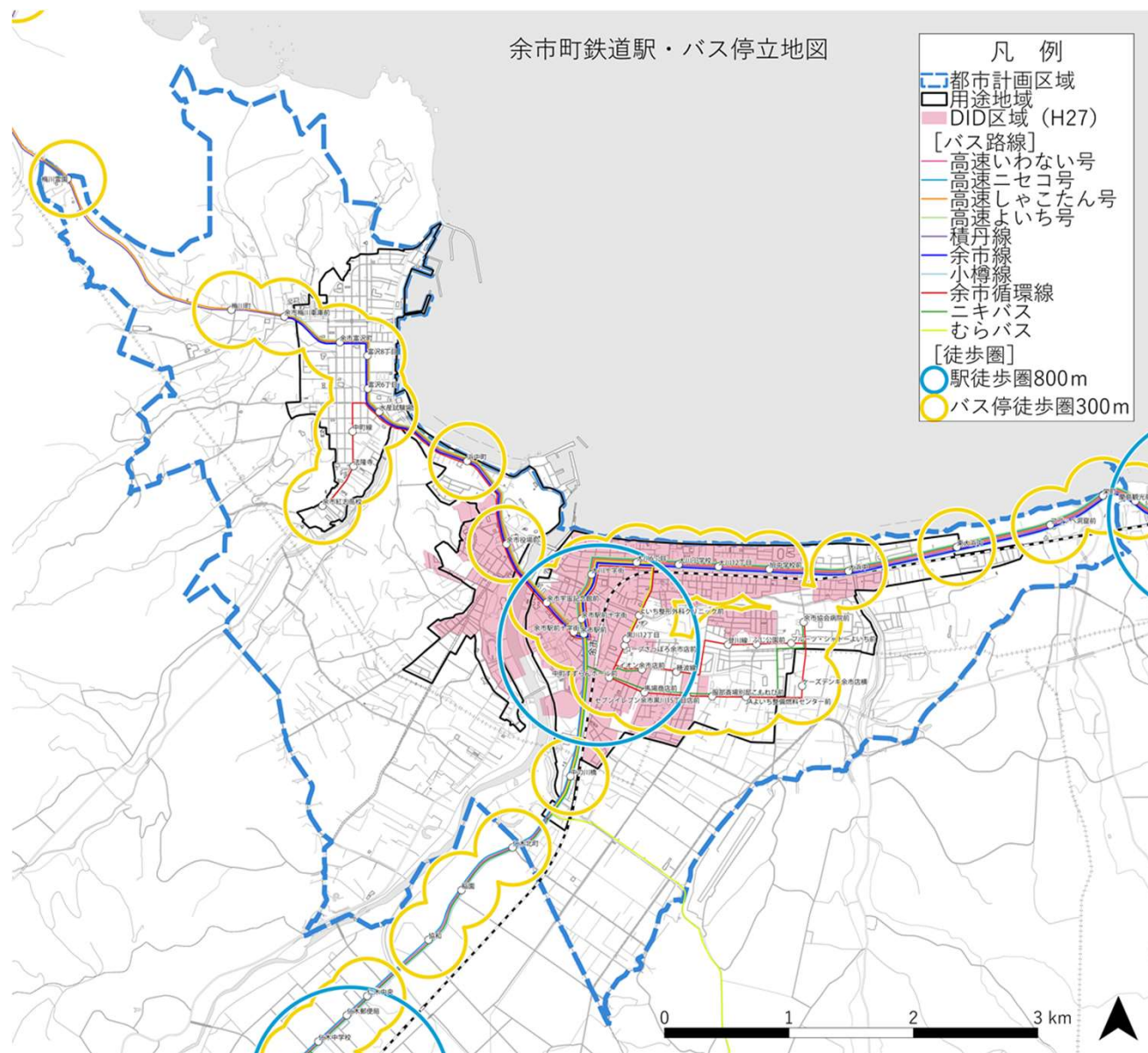
高齢者自動車運転免許保有数の推移（資料：余市町地域公共交通計画）



高齢者自動車免許返納数の推移（資料：余市町地域公共交通計画）

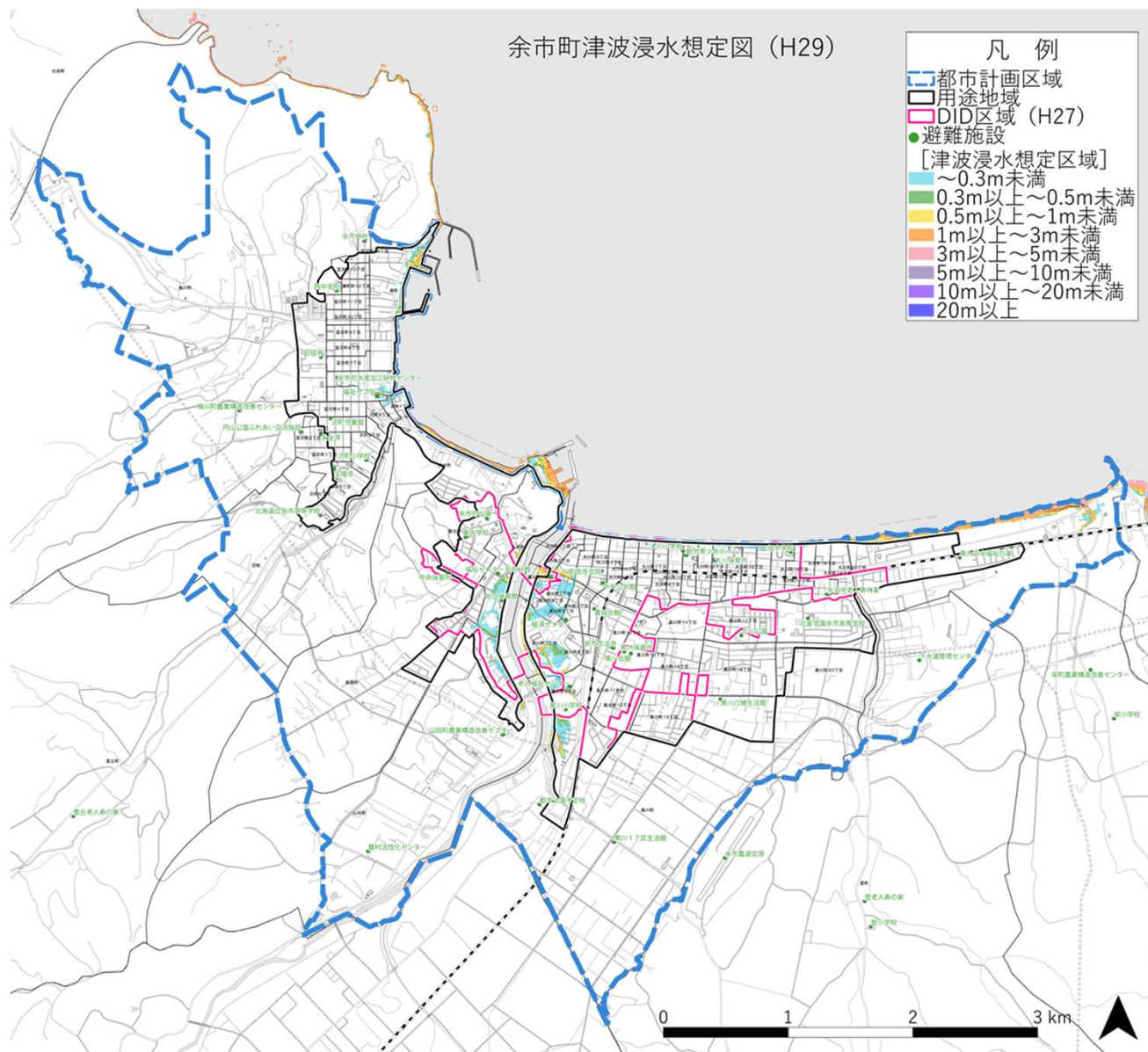
- ・ 高齢者の自動車運転免許保有数は、平成29年（2017年）では906人（8.1%）となっており、平成20年（2008年）の614人（5.2%）から約10年間で292人（2.9ポイント）増加しています。
- ・ 運転免許自主返納者数は、平成29年（2017年）では56人となっており、平成25年（2013年）の14人から5年間で4倍に増加しています。

4 公共交通 (4) 公共交通カバー圏



- 余市町の公共交通には鉄道とバスがあり、市街地の大部分は、鉄道駅から徒歩圏800m、バス停から徒歩圏300m内に含まれています。
- 運行便数は、高速バスの高速いわない号が15往復と最も多く、他は1往復から3往復の運行となっています。
- 幹線バスは余市線が23往復と最も多く、積丹線は往路が11本、復路は8本、小樽線は4往復と、高速バスとともに生活移動を支えています。
- 地域内バスは余市循環線1路線のみで、余市駅と余市紅志高校や大型店と余市協会病院の間を循環運行する路線として令和4年4月から運行しています。

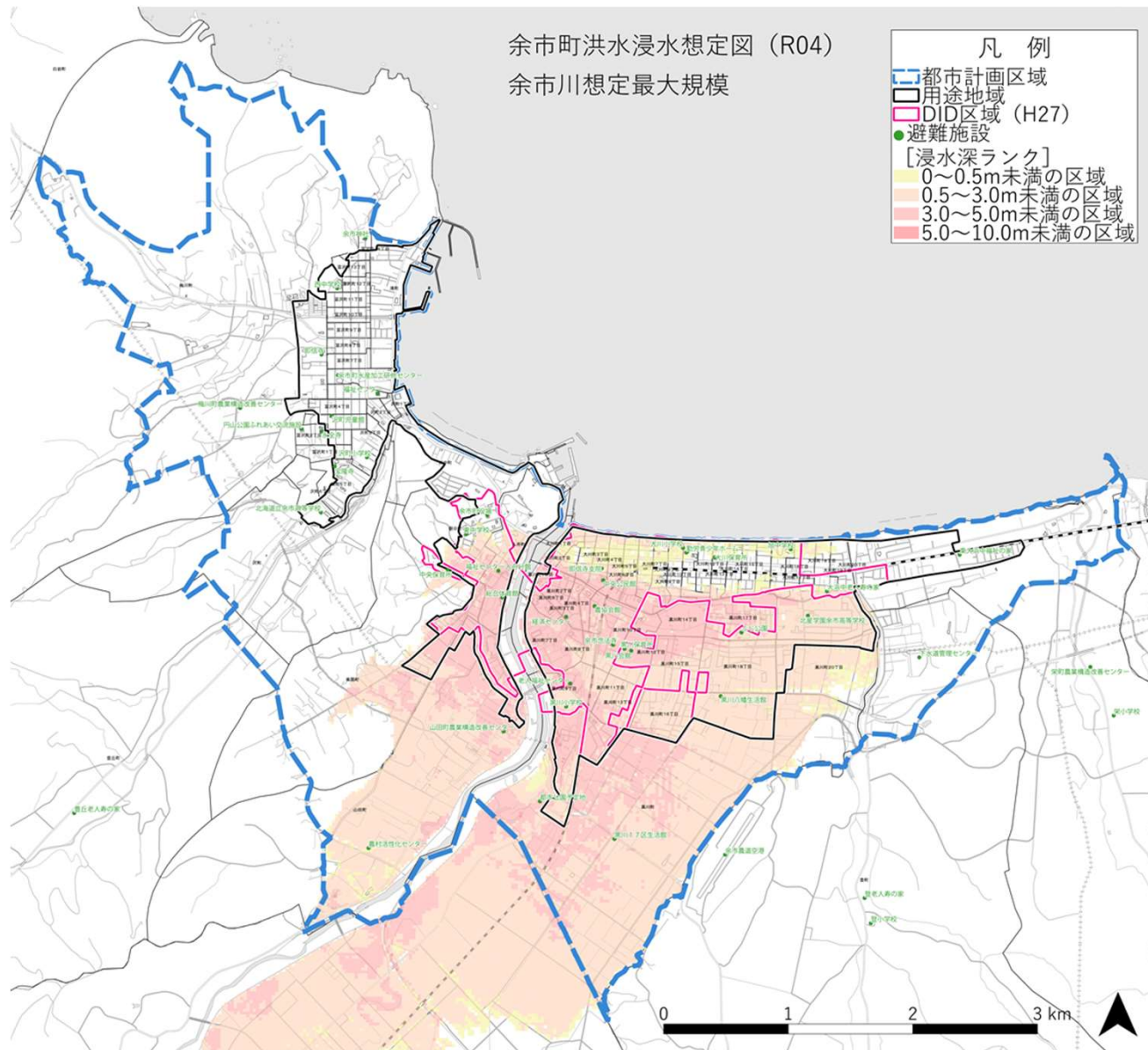
5 災害 (1) 津波災害



- ・津波浸水想定では、海岸部においては、全域で家屋の1階が完全に水没するおそれがある3.0m未満の浸水深となっています。
- ・海岸部以外の居住地は、浸水の被害が少なくなっていますが、河川沿いには0.3m未満の浸水深となる場所が点在しています。
- ・特に、余市川の周辺部は、津波による浸水範囲が広がっており、対策が求められます。

資料：国土交通省 津波浸水想定データ (平成29年)

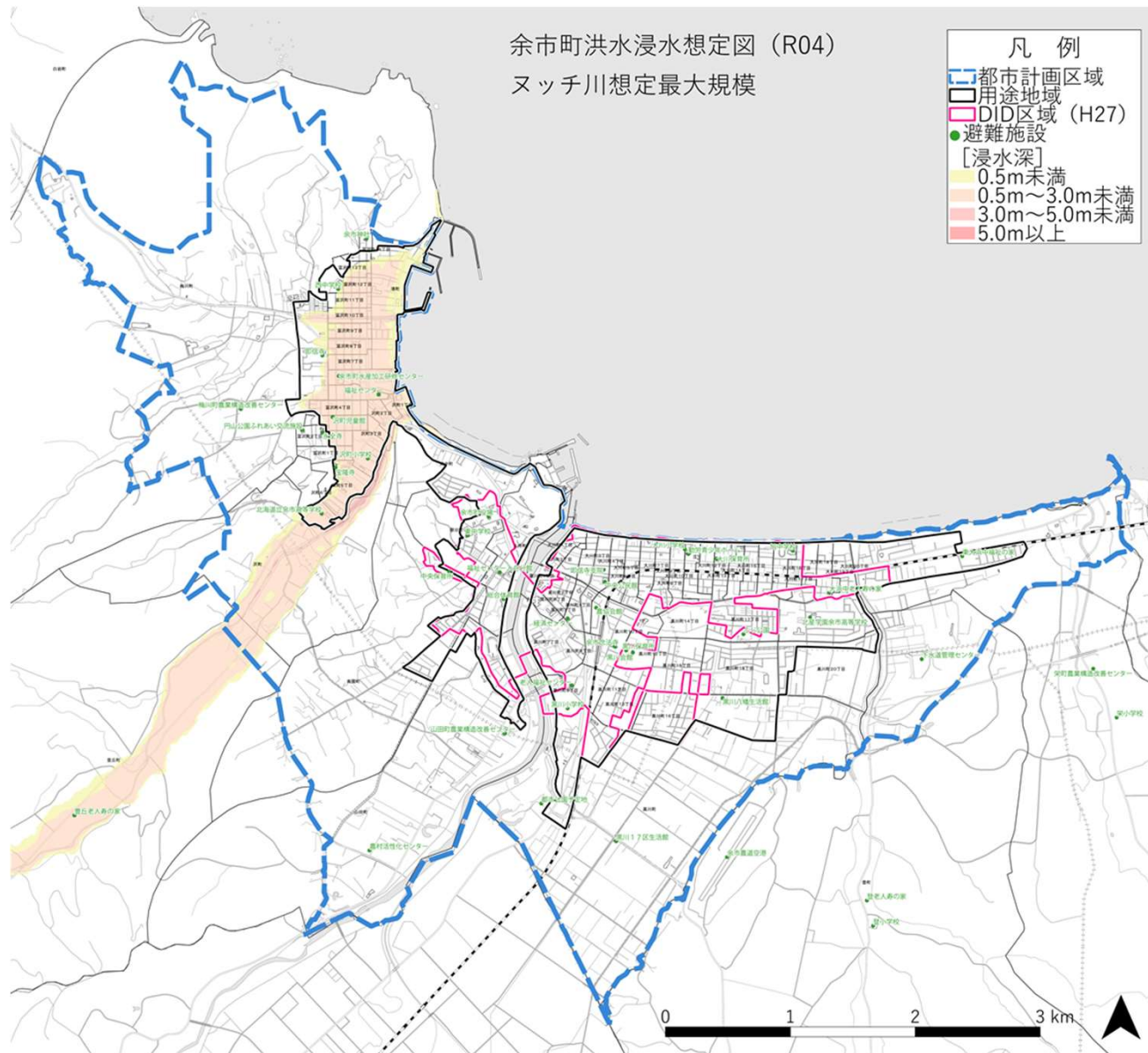
5 災害 (2) 洪水浸水災害 ~余市川 想定最大規模降雨~



- 余市川は想定最大規模である24時間降雨量439.2mmの場合に、河川沿いや下流部に家屋の1階が水没するおそれのある3.0m未満の浸水や、2階にまで達する5.0m未満の浸水が想定されています。
- 黒川地区をはじめ、大川、朝日、入舟、美園、山田地区で避難場所として指定している施設は、浸水深に応じた運用を図る必要があります。

資料：国土交通省 洪水浸水想定データ (令和4年)

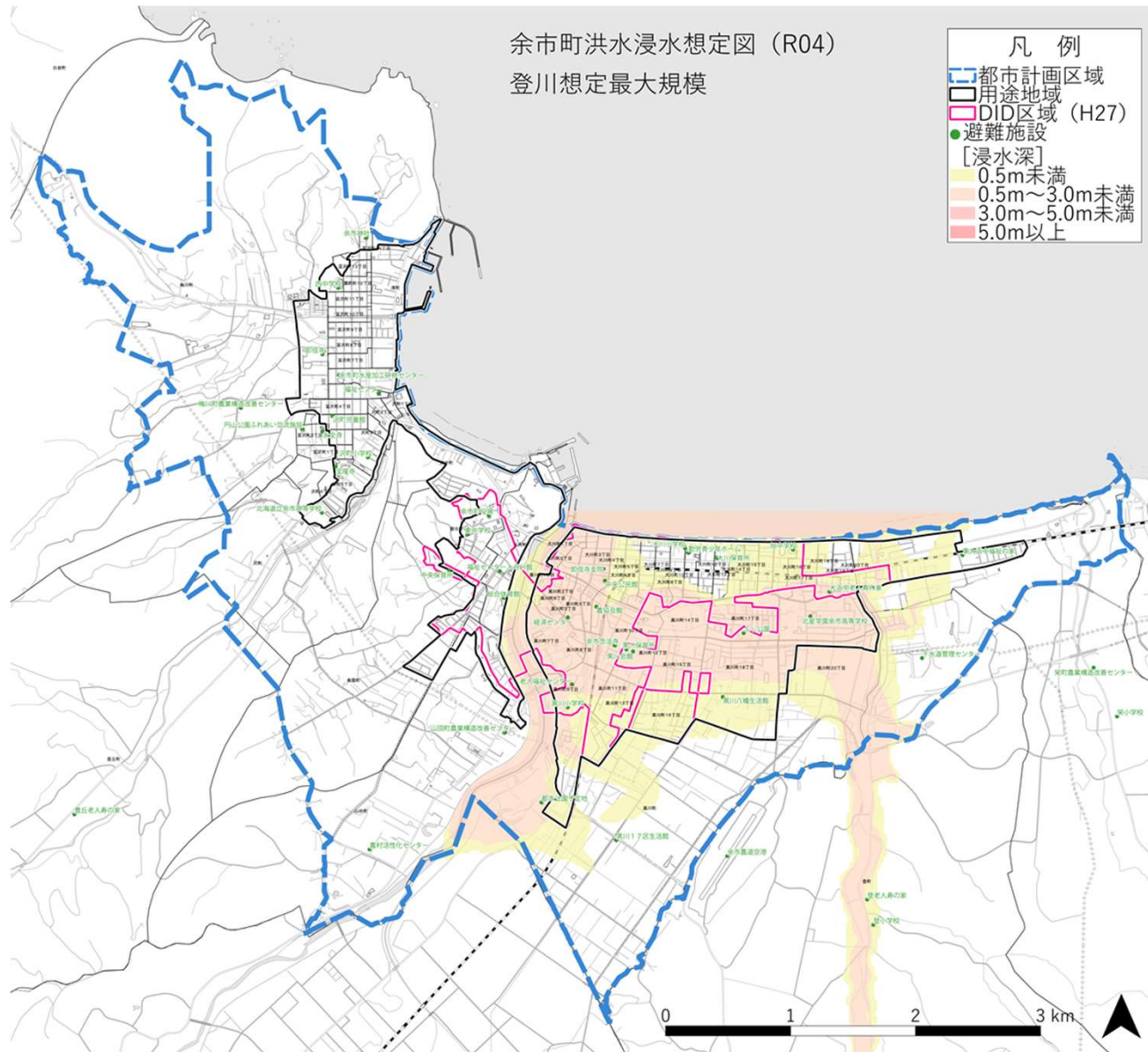
5 災害 (2) 洪水浸水災害 ~ヌッチ川 想定最大規模降雨~



- ・ヌッチ川は想定最大規模である2時間降雨量155mmの場合に、河川沿いや下流部に家屋の1階が水没するおそれのある3.0m未満の浸水が想定されています。
- ・富沢地区をはじめ、沢地区、港地区で避難場所として指定している施設は、浸水深に応じた運用を図る必要があります。

資料：国土交通省 洪水浸水想定データ（令和4年）

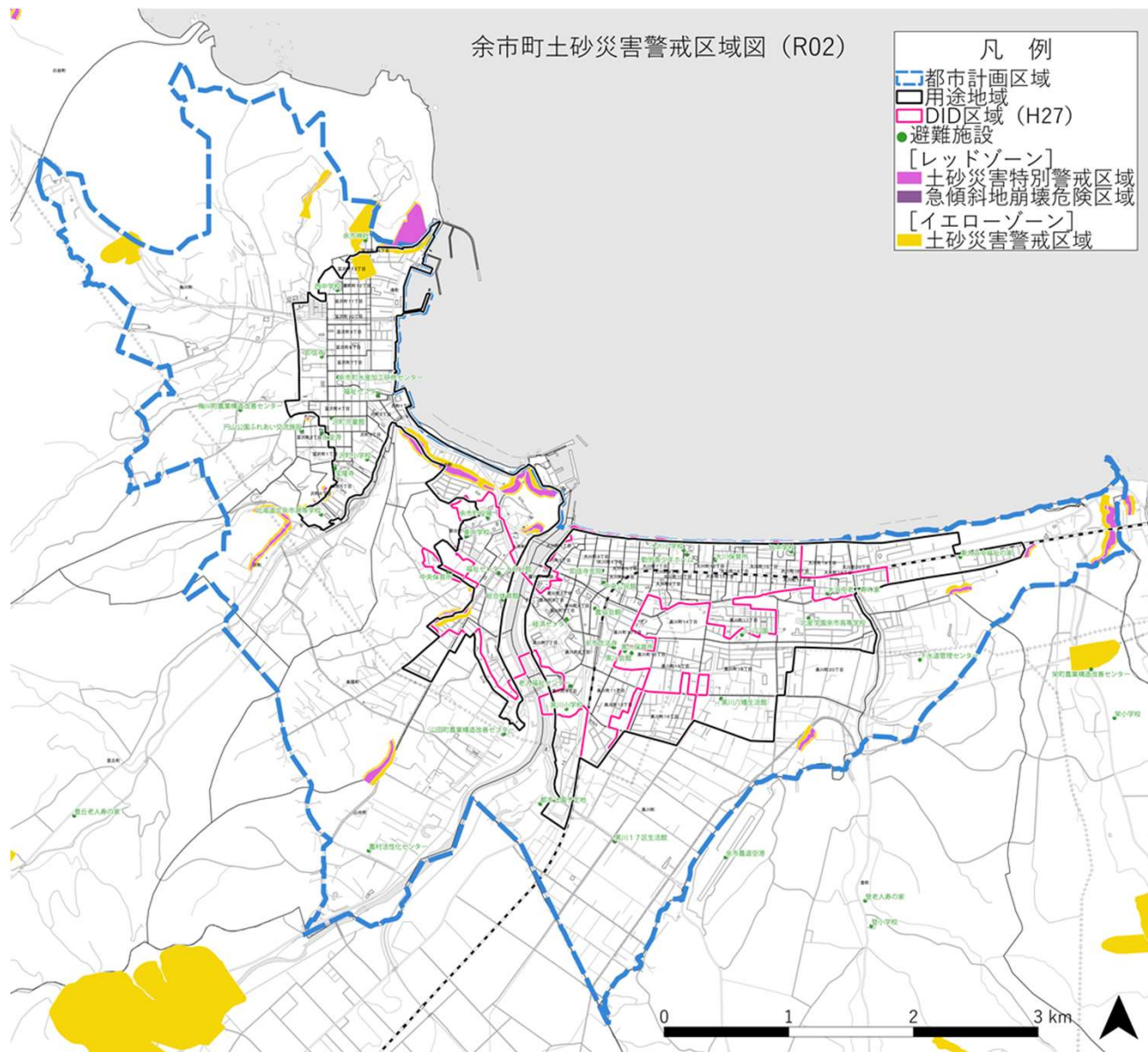
5 災害 (2) 洪水浸水災害 ~登川 想定最大規模降雨~



- 登川は想定最大規模である
2時間降雨量158mmの場合に、
河川沿いや下流部に家屋の1
階が水没するおそれのある
3.0m未満の浸水が想定され
ています。
- 黒川地区、大川地区で避難
場所として指定している施
設は、浸水深に応じた運用
を図る必要があります。

資料：国土交通省 洪水浸水想定データ (令和4年)

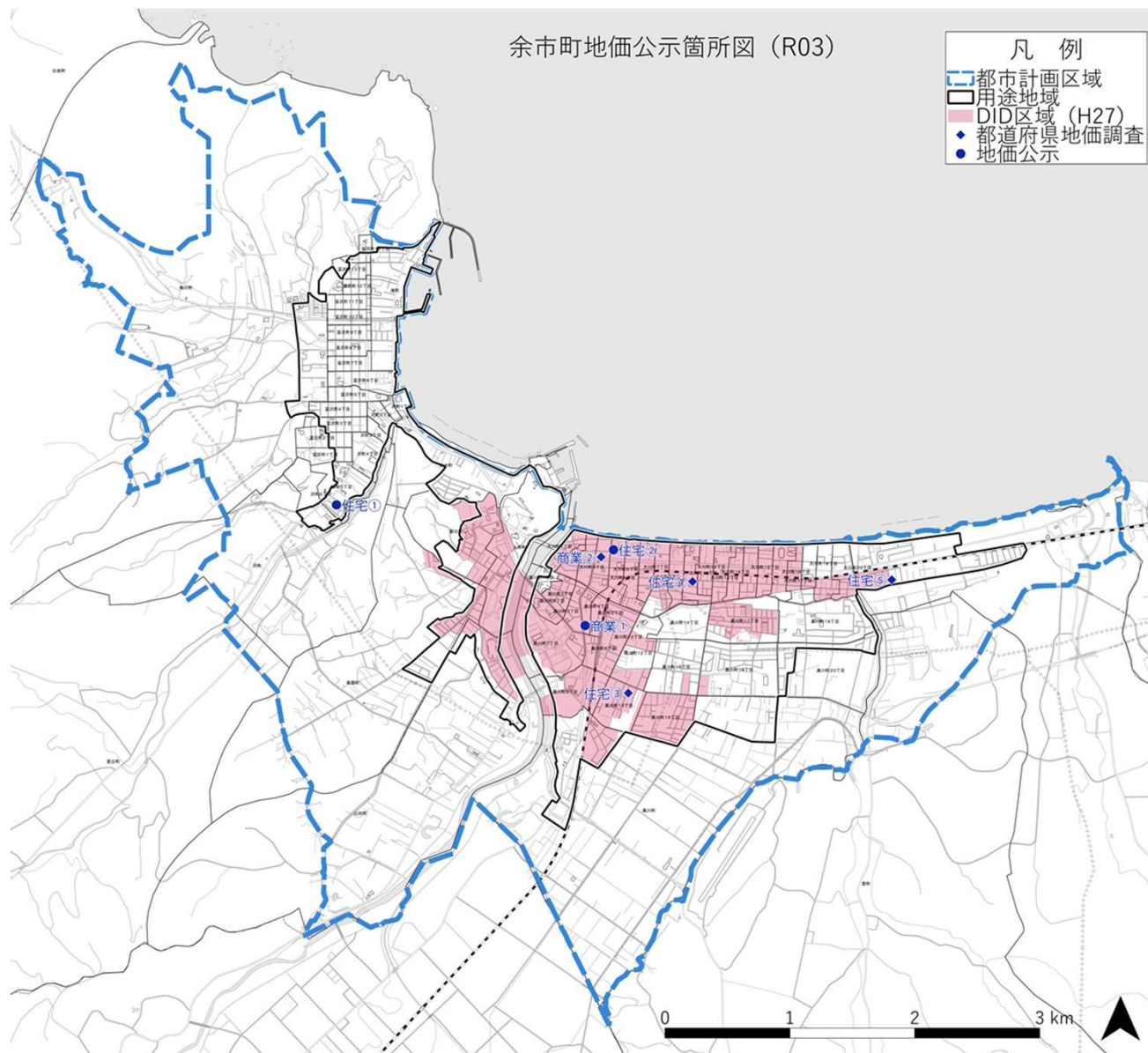
5 災害 (3) 土砂災害



- 土砂災害では、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域が、富沢町、沢町、浜中町にある丘陵に指定されています。
- 急傾斜地崩壊危険区域については、都市計画区域内での指定はありません。

資料：国土交通省 土砂災害警戒区域データ (令和2年)

6 経済動向 (1-1) 地価状況の推移



・余市町内は、地価公示
(国) が3箇所、地価調査
(北海道) が4箇所付されて
います。

住宅①

余市町沢町5丁目46番28

住宅②

余市町大川町5丁目15番3

住宅③

余市町黒川町13丁目47番17

住宅④

余市町大川町10丁目31番18

住宅⑤

余市町栄町414番8

商業①

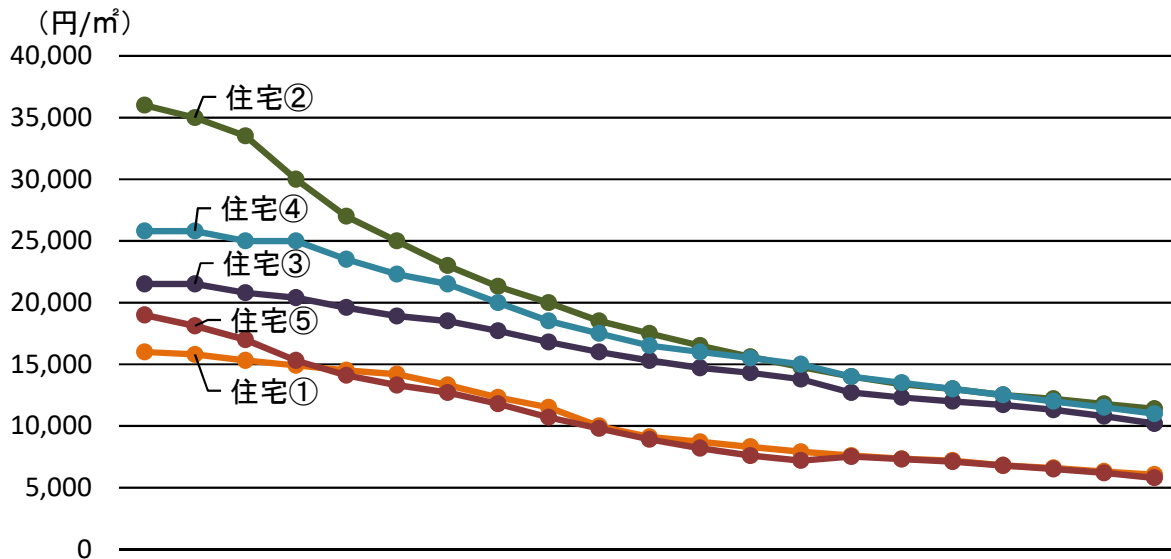
余市町黒川町4丁目112番外

商業②

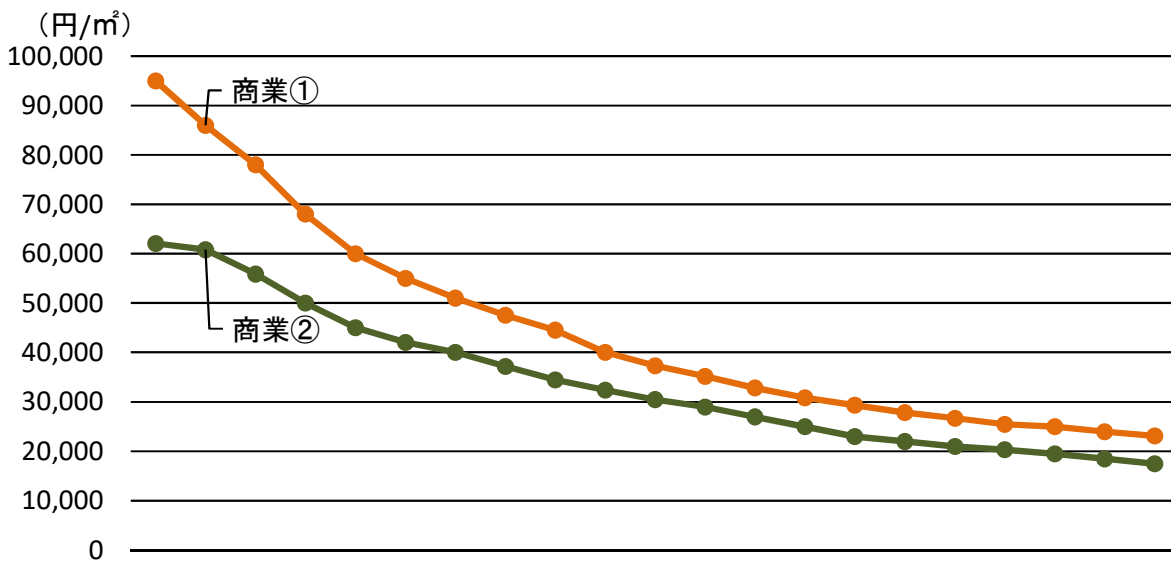
余市町大川町4丁目57番1外

資料：国土交通省 地価公示・都道府県地価調査

6 経済動向 (1-2) 地価状況の推移



住宅地の地価の価格動向 (資料：国土交通省 地価公示・都道府県地価調査)



商業地の地価の価格動向 (資料：国土交通省 地価公示・都道府県地価調査)

- ・ 20年の推移をみると、住宅地は、住宅①が62.2%、住宅②が68.3%、住宅③が52.6%、住宅④が57.4%、住宅⑤が69.5%下落と、いずれも半分以下の価格まで低下し、長期的な下落傾向にあります。
- ・ 商業地では、商業①が75.7%、商業②が71.8%と70%以上の下落を示しており、住宅地よりも下落率が大きくなっています。

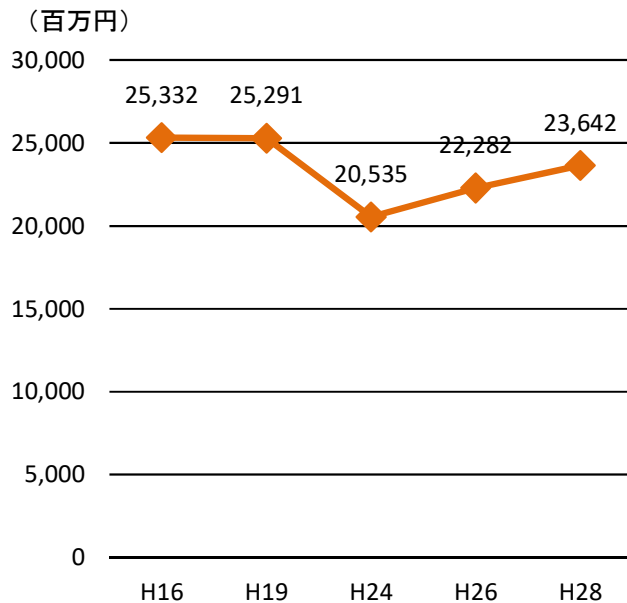
凡例	R1	R2	R3
住宅①	6,600	6,300	6,050
住宅②	12,200	11,800	11,400
住宅③	11,300	10,800	10,200
住宅④	12,000	11,500	11,000
住宅⑤	6,500	6,200	5,800
商業①	25,000	24,000	23,100
商業②	19,500	18,500	17,500

円/m²

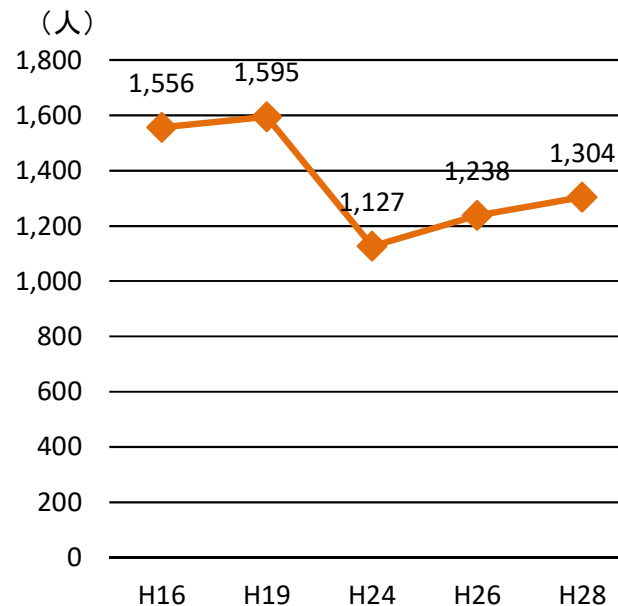
6 経済動向 (2) 経済活動の推移

- ・小売事業所数は、平成24年に大きく数を減らしていますが、平成28年は増加に転じています。
- ・小売販売額も、平成24年以降は増加傾向にあり、従業者数の増加・雇用の創出につながっています。
- ・対して、売り場面積は平成24年を境に減少しており、コンビニエンスストアをはじめとする中小規模の店舗が増えていると推察されます。

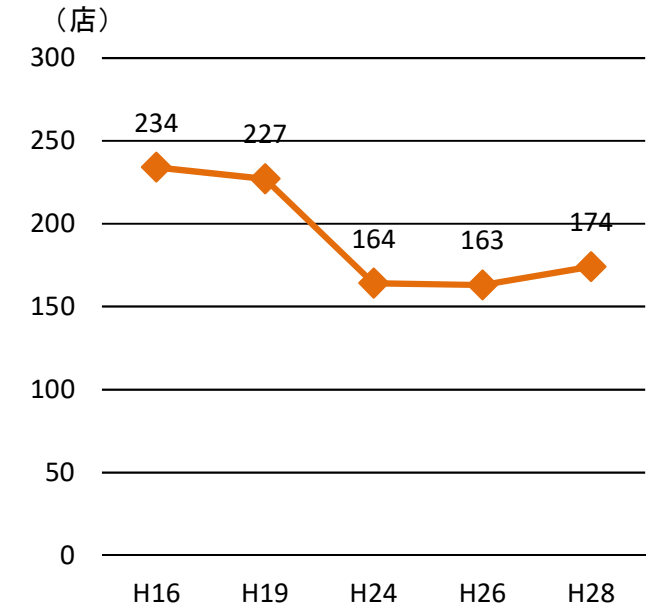
(資料：商業統計調査 (H16・19・26)、経済センサス-活動調査 (H24・28))



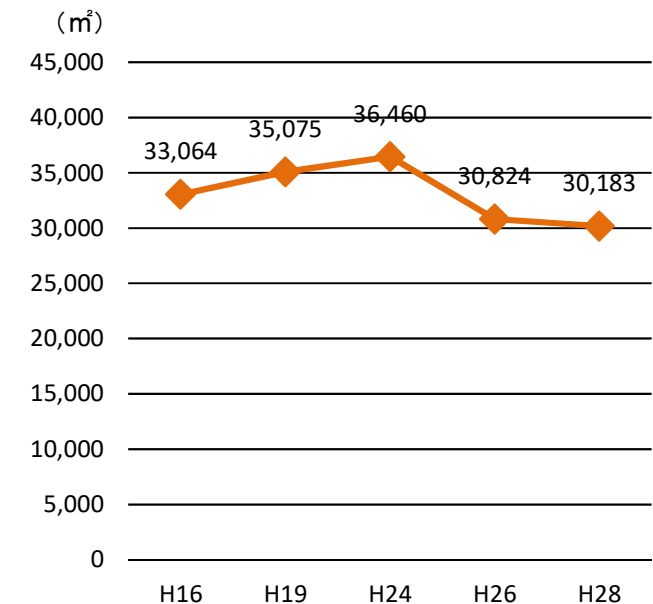
小売年間販売額の推移



小売業従業者数の推移



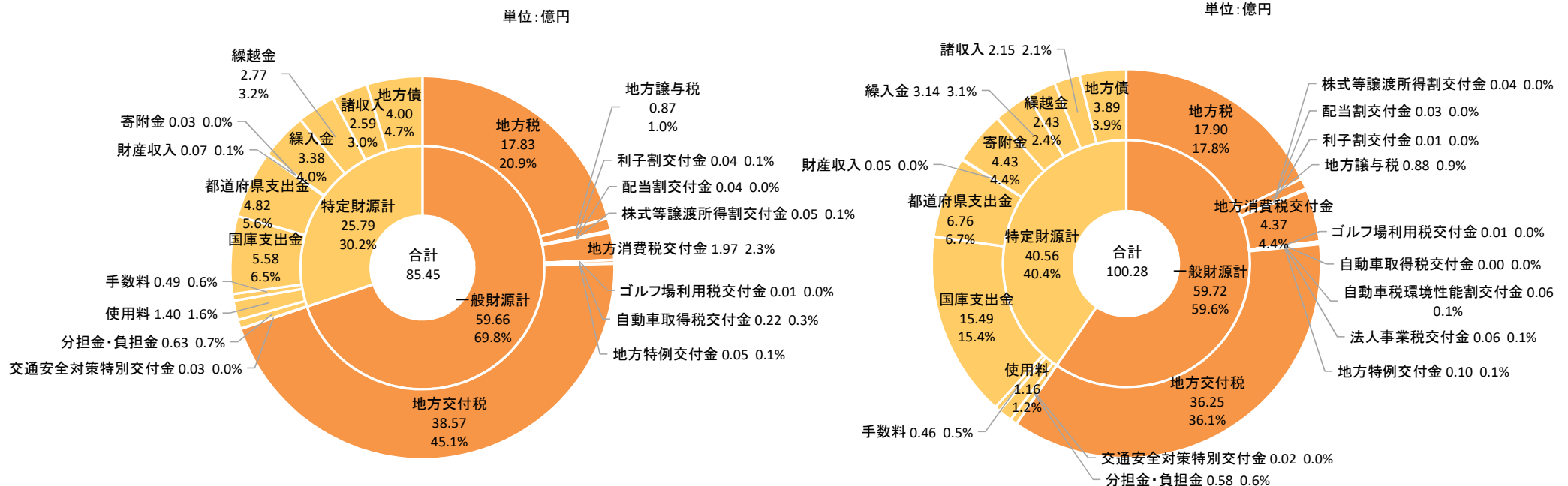
小売事業所数の推移



小売業売り場面積の推移

7 財政状況 (1) 財源別歳入

- ・余市町の財源別収入は、令和2年度（2020年度）では合計で100億円となっており、平成25年度（2013年度）よりも増えています。
- ・一般財源と特定財源の割合は、令和2年度（2020年度）は特定財源の割合が1割程度増えています。 ※R2の国庫支出金には、特別定額給付金を含めていません
- ・地方自治のためには、地方公共団体が収入を自由に使用できる裁量権をもつことが重要と考えられますが、一般財源の比率が減少しています。

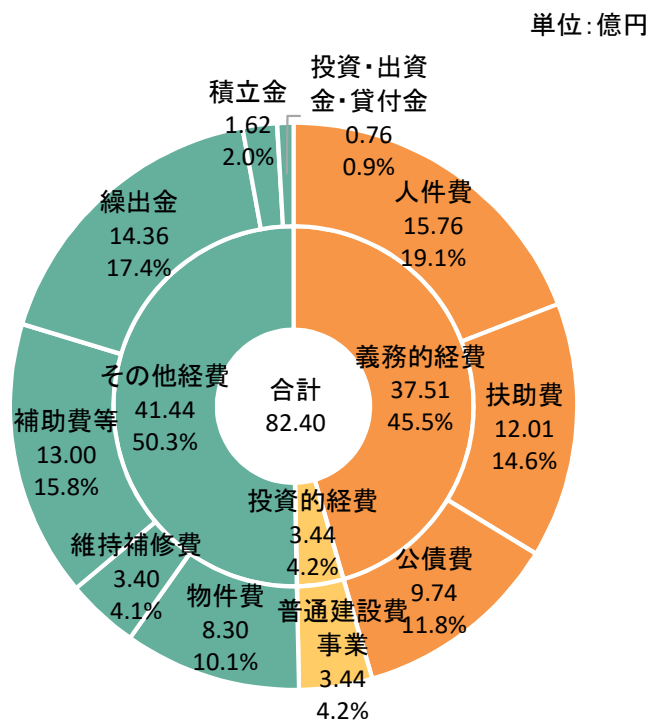


平成25年度財源別歳入決算額 (資料: 余市町財政状況資料集)

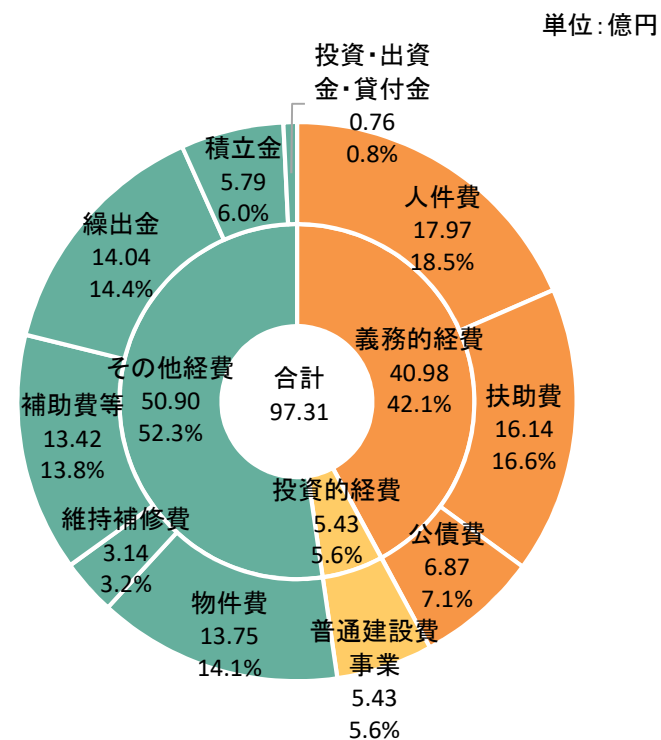
令和2年度財源別歳入決算額 (資料: 余市町財政状況資料集)

7 財政状況 (2) 性質別歳出

- ・余市町の性質別歳出は、令和2年度（2020年度）では合計で97億円となっており、平成25年度（2013年度）よりも増えています。
 - ・歳出の内訳は、その他の経費における物件費の割合が増加しています。
- ※R2の補助費等には、特別定額給付金を含めていません



平成25年度性質別歳出決算額（資料：余市町財政状況資料集）

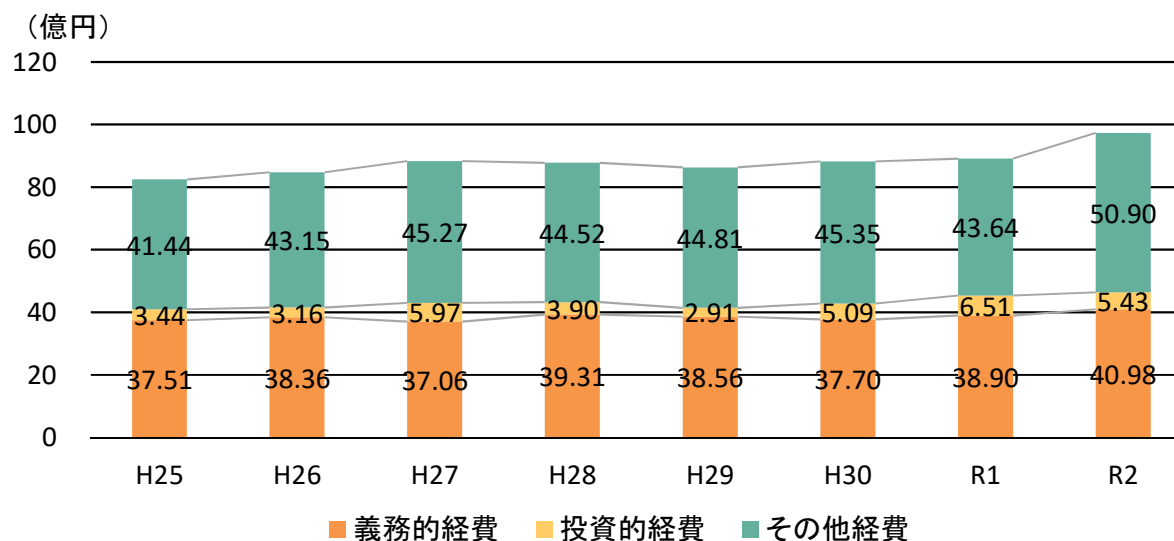


令和2年度性質別歳出決算額（資料：余市町財政状況資料集）

7 財政状況 (3) 義務的・投資的経費

- ・義務的・投資的経費は、大幅な増減なく推移していますが、義務的経費は、社会福祉サービスの充実及び高齢化に伴い、扶助費の上昇が今後も予想されます。
- ・投資的経費は、老朽化した公共施設の更新及び大規模改修にかかる建設費事業の増加が予測されます。

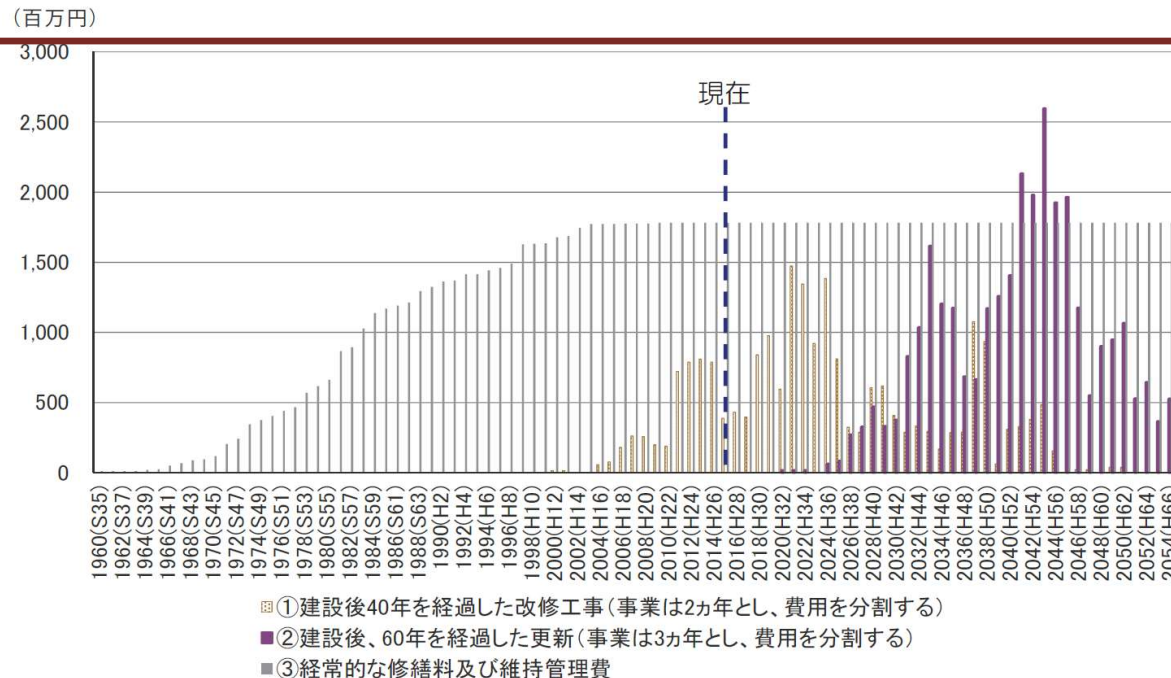
※R2のその他の経費には、特別定額給付金を含めていません



義務的・投資的経費の推移 (資料：余市町財政状況資料集)

7 財政状況 (4) 公共施設の管理費等

- ・現在の公共施設（建築物）の管理は、「余市町公共施設等総合管理計画（平成28年3月策定）」を踏まえ、老朽化した施設の増加に伴い、公共施設の更新及び維持管理に係る経費も増加しており、「余市町公共施設の在り方の検討（令和4年7月策定）」において、公共施設再編の計画期間を令和4年度から令和27年度と設定し、維持管理・運営コストの縮減を図ります。



公共施設（建築物）の将来更新費用の推計（資料：余市町公共施設等総合管理計画）

8 課題の整理

項目	将来懸念される課題
人口	<ul style="list-style-type: none">・人口減少に伴って人口密度の低い地域が増加し、生活サービス機能や産業の活力が維持できなくなります。・高齢化が進行するため、高齢者が利用しやすい公共交通のあり方が必要となります。・高齢化に伴う福祉需要が増加し、福祉分野での人材確保が課題となります。・子育て世代が、働きながら育児も両立できる環境を創出し、年少人口の減少を軽減することが必要です。
土地利用	<ul style="list-style-type: none">・人口減少に伴う空き家の増加に加え、新規住宅への住み替えも一定数あるため、さらに空き家が増加することが懸念されます。
都市機能	<ul style="list-style-type: none">・人口減少とともに商業も含めた施設利用者が減少し、現在のサービスの維持が困難になります。・現在施設が充足できていない地域は、居住環境の低下が進行し、地域格差が生じる可能性が考えられます。
公共交通	<ul style="list-style-type: none">・JR在来線の廃止により、地域の交通体系が大きく変化し、移動に制約が生じることが懸念されます。・減便や路線の見直しによって、高齢者などの交通弱者の利便性が損なわれるほか、交通空白地帯が生じる可能性があります。
災害リスク	<ul style="list-style-type: none">・余市川は中心市街地内を流れており、将来的にも一定の人口集積が見込まれる地域であるため、災害によって人命や財産がおびやかされる可能性があります。
経済動向	<ul style="list-style-type: none">・人口密度が低下し、生活サービスが維持できず、さらに地価の下落が懸念されます。・地価の下落により固定資産税が減少し、財政を圧迫する恐れがあります。
財政状況	<ul style="list-style-type: none">・一般財源の根幹となる町税の確保が、人口減少とともに難しくなるといえます。・老朽化した公共施設に対する維持管理費用等の増加が懸念されます。